

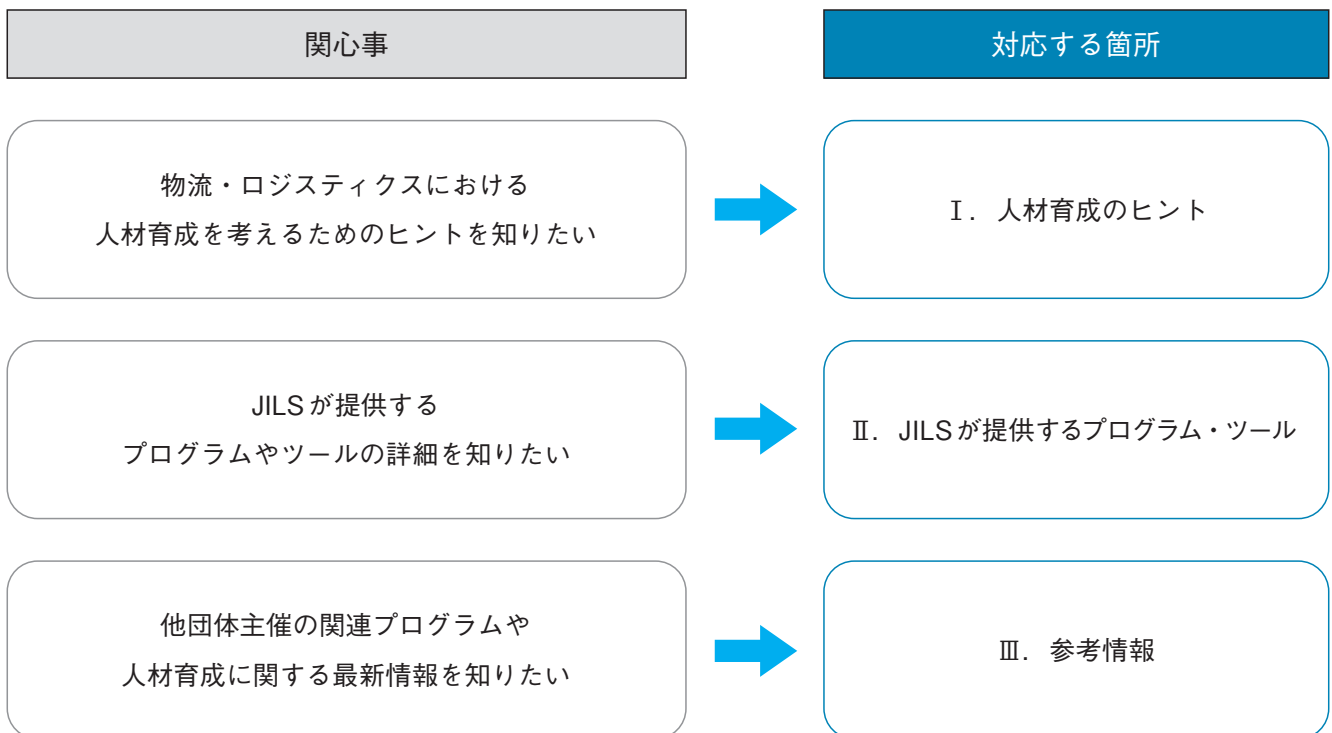
はじめに

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）は、「ロジスティクスの高度化と普及推進を通じた、わが国産業界の発展と国民生活の向上、国際社会への貢献」をミッションとして、企業の生産性向上に寄与するとともに、多くの企業の連携・協働によって社会共有価値を創出し、持続可能な発展を目指します。

JILSではこのための活動として、ロジスティクスに関する調査及び研究、企画の立案及び推進、人材の育成及び指導等を実施しております。

この「人材育成支援ガイド」では、ロジスティクスに携わる方々の「学び」を切り口として、人材の育成に資する情報やJILSの事業を紹介しております。本ガイドの全体的な構成は以下の通りとなっておりますので、ご参照のうえ、ご活用ください。

人材育成支援ガイドの全体構成



本ガイドが、ロジスティクス分野における人材育成の実践ならびに、皆様の学びの道しるべとなりましたら幸いです。

目次

I 人材育成のヒント

1. 人材育成全般におけるヒント 2~5
 - 人的資本経営の実践 2~3
 - 人材育成の進め方 4
 - 研修効果を最大化するための職場のサポート 5
2. ロジスティクス分野におけるヒント 6~15
 - 人材育成モデルイメージ 6~7
 - 業務を遂行するために習得すべき主な知識・技術 8~11
 - 国際物流強靱化の推進 12
 - 物流現場改善活動の推進 13
 - サプライチェーンマネジメント (SCM) の推進 14~15

II JILS が提供するプログラム・ツール

1. 体系的に学ぶ 16~35
 - 講座・コース 16~23
 - 資格制度 16~17
 - ロジスティクス経営士資格認定講座 18
 - 物流技術管理士資格認定講座 19
 - 物流技術管理士補資格認定コース 20
 - ロジスティクス基礎講座 20
 - 国際物流管理士資格認定講座 21
 - 物流現場改善士資格認定講座 22
 - ストラテジック SCM コース 23
 - セミナー 24~33
 - 物流教育 DVD 34
 - 社内教育 34
 - コンサルティング 35
 - 手引書・診断ツール 35
2. 先進事例から学ぶ 36~39
 - 講演会・登録制研究会 36~37
 - 物流改善事例大会・発表会 38
 - 現場見学 39
3. 調査結果から学ぶ 39

III 参考情報

1. 他団体主催のプログラム 40~41
 - ビジネス・キャリア検定試験「ロジスティクス」分野 (JAVADA) 40
 - 通信研修 (産業能率大学) 41
2. 付録 42~47
 - ロジスティクス・物流・物流業務の領域区分 42~43
 - 企業に求められる人的資本の情報開示について 44~46
 - 課題解決の鍵となる高度物流人材・物流 DX 人材の活躍 47

- オンライン事業へのご参加にあたり 48
- 入会のご案内 49
- お問い合わせ・資料請求 49

I 人材育成のヒント 1. 人材育成全般におけるヒント

人的資本経営の実践

人的資本経営（人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上につなげる経営）に注目が集まっています。

企業価値を向上させるためには、人材育成による人的資本（能力）の強化が重要となります。

●背景

- ・経済成長を牽引するファクターが有形資産から無形資産へ移行。
- ・特に人的資本は企業価値を生み出す原動力。
- ・投資家からの人的資本の開示要求（米国、EUにおける情報開示の義務化）。



●人的資本経営とは

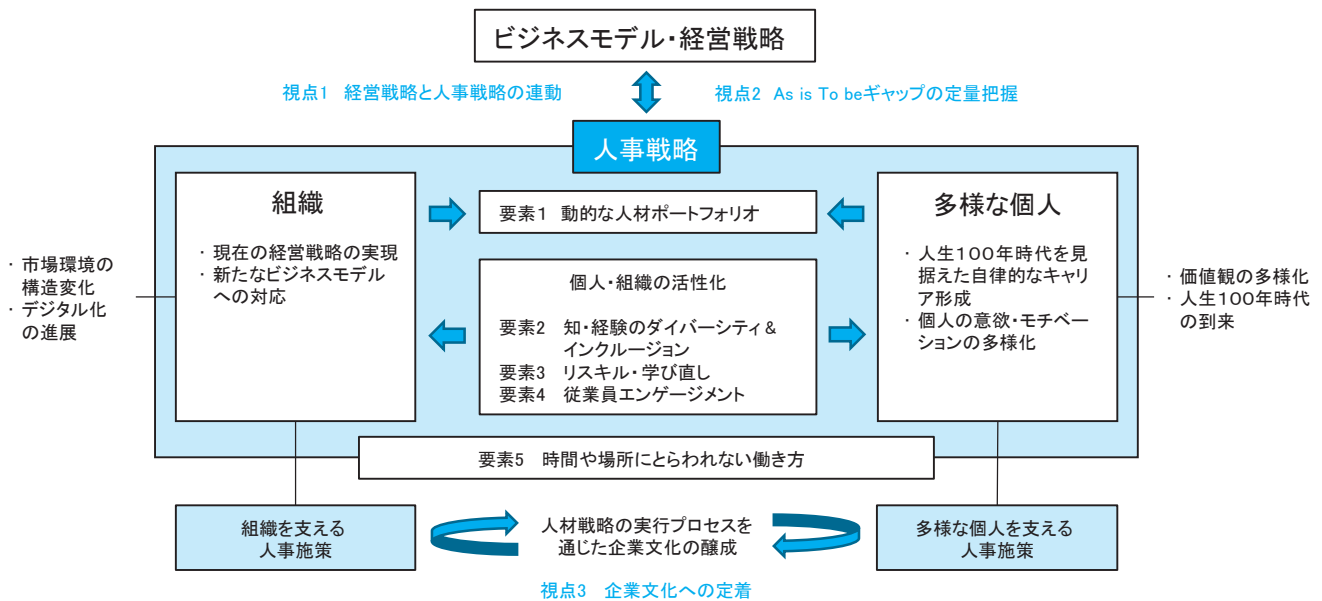
- ・「人」を付加価値を生み出す資本と捉え、積極的に投資をし、従業員の育成・成長を図る（価値を最大限に引き出す）ことにより、企業価値の向上、企業競争力の強化を目指す。



●ポイント

- ・経営戦略と人材戦略の連動がより一層重要になる。
- ・自社の人的資源の現状把握、課題の明確化（可視化）を行い、対策としての人への投資が必要になる。
- ・ステークホルダーとの関係性構築に向けた情報開示が求められる（上場企業）。

人材戦略に求められる3つの視点、5つの要素（伊藤レポート2.0より）



3つの視点 5つの要素	主な取り組みの例示
視点1 経営戦略と人事戦略の連動	□人材戦略の策定と実行を担う責任者（CHRO）の設置・育成 □経営戦略実現の障害となる人材面の課題の抽出と整理 □KPIの設定と設定の背景・理由の説明 □人事部門と事業部門の役割の明確化 □人事部門のケイパビリティ向上 □経営人材選抜・リーダーシップ開発
視点2 As is To beギャップの定量把握	□人事関連情報の整備・集計分析 □KPIの設定・一覧化 □目標達成期間の設定 □改善に向けた課題の抽出
視点3 企業文化への定着	□企業理念、企業の存在意義、企業文化の再考と定義付け □重視する行動や姿勢の社員への浸透 □CEO・CHROと社員の対話の場の設定
要素1 動的な人材ポートフォリオ計画の策定と運用	□将来の事業構想を踏まえた中期的な人材ポートフォリオの策定とギャップ分析 □人材の再配置 □不足する人材確保戦略の検討 □学生の採用 □専門人材（博士等）の採用 □退職者との持続的な関係構築
要素2 知・経験のダイバーシティ&インクルージョン	□キャリア採用や外国人の比率・定着・能力発揮のモニタリング □課長やマネージャーの組織運営能力の向上 □マネジメント方針の共有
要素3 リスキル・学び直しの促進	□組織として不足しているスキル・専門性の特定 □社内外からのキーパーソン登用 □キーパーソンによるスキル伝播（後継者の計画的育成） □リスキルできる機会の提供 □リスキルと処遇や報酬の連動 □社外での学習機会の提供（サバティカル休暇、留学等） □社内起業等の支援
要素4 従業員エンゲージメントを高める	□エンゲージメントレベルの把握 □コミュニケーション担当者の決定・フォローアップ □社員が保有するスキル、経験、成果の整理 □個人の成長に資するアサインメント □公募制による自律的なキャリア形成 □副業・兼業の推進 □健康経営への投資・Well-beingの視点の取り組み
要素5 時間や場所にとらわれない働き方を進める	□業務デジタル化 □社内決裁の簡素化・デジタル化 □サテライトオフィスの整備 □マネジメント見直し □リアルワークとリモートワークの組み合わせ □コミュニケーション機会の確保

出所 経済産業省「人的資本経営の実現に向け た検討会報告書-人材版伊藤レポート2.0-」（2022年5月）を基にJILSが作成

人的資本経営に関する経済産業省の取り組み

https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinteki_shihon/index.html

持続的な企業価値の向上と人的資本に関する研究会

- 経営環境の変化に応じた人材戦略の構築を促し、中長期的な企業価値の向上につなげる観点から、人材戦略に関する経営陣、取締役、投資家それぞれの役割や、投資家との対話の在り方、関係者の行動変容を促す方策等を検討するため、2020年1月から、研究会を開催。
- 報告書（人材版伊藤レポート）を、2020年9月に公表。

人材版伊藤レポート

人的資本経営に関する調査

- 日本企業の人的資本経営に関する現状を把握することを目的として実施。
- 企業のCEO・CHROをはじめとする経営陣が自社の人的資本経営の実態を確認し、振り返ることができるよう、個社別のレポートも作成し、参加企業全体と各社の現状を対比することができる。

人的資本経営の実現に向けた検討会

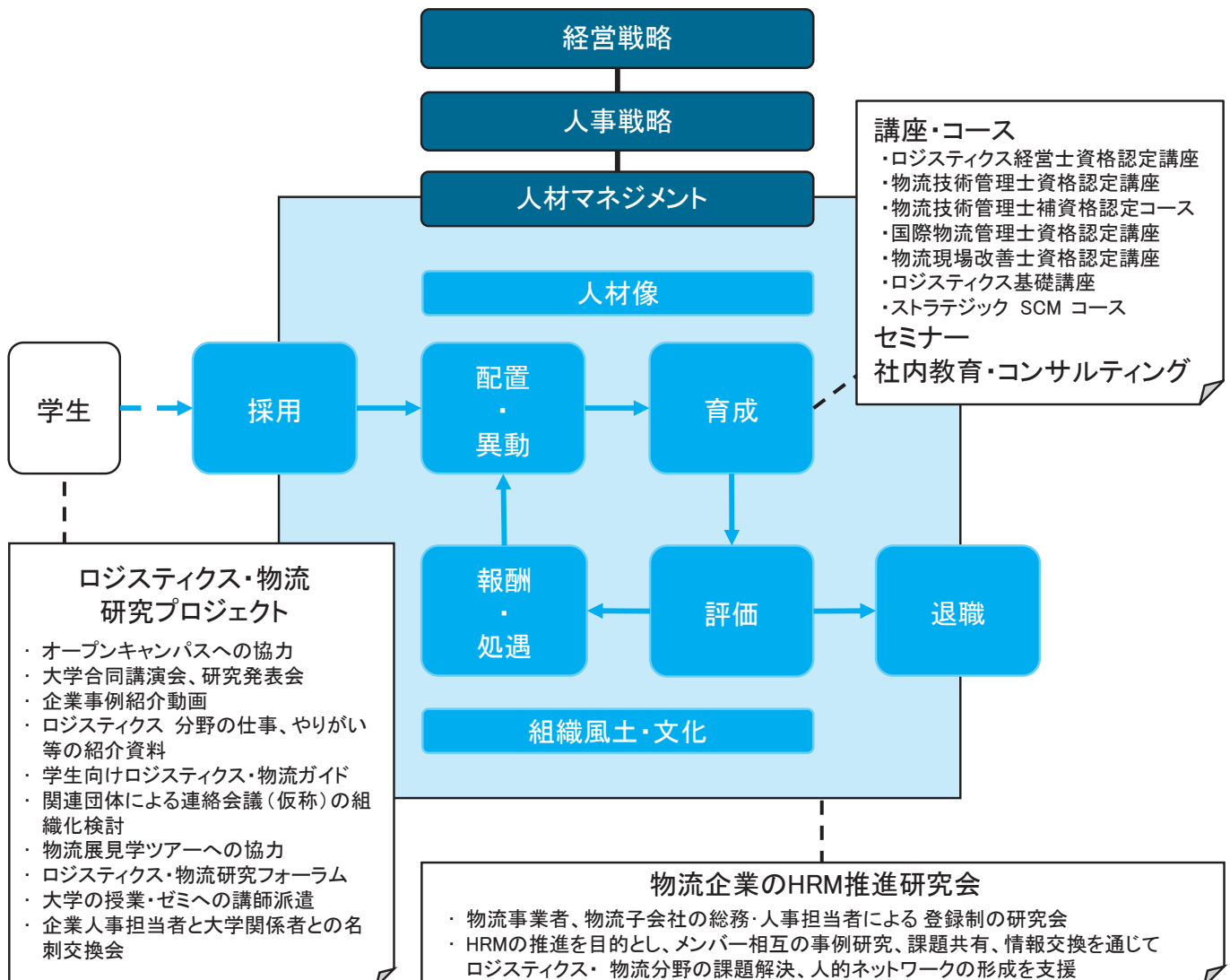
- 持続的な企業価値の向上に向けて、経営戦略と連動した人材戦略の実践について検討会で議論。
- 報告書と実践事例集と併せた「人材版伊藤レポート2.0」を2022年5月に公表。

人材版伊藤レポート2.0 実践事例集

人的資本経営コンソーシアム

- 「人への投資」に積極的な日本企業に世界中から資金が集まり、次なる成長へと繋がることを期待。
- 総会の下に、企画委員会、実践分科会及び開示分科会が設置され、人的資本経営の実践に関する先進事例の共有、企業間協力に向けた議論、効果的な情報開示の検討が進められる予定。
- 会員：320法人（2022年8月25日現在）

JILSの取り組み



人材育成の進め方

1

ステップ1 組織の現状把握

現状把握

- 実施しようとする従業員の人材育成が、自社の経営理念、経営戦略、人材育成計画と連動しているかを確認することが大切です。
- 「現状把握の仕方がわからない」、「業務が忙しくて把握する時間がない」、「詳細には把握できていないがレベル感は把握している」等という企業も多いと思われますが、従業員の能力の「見える化」は大切です。
- 自社に合った方法で、現状把握を行ってください。

<現状把握方法>

- ① 評価シートの作成・活用
- ② アンケートの実施
- ③ 従業員面談の実施
- ④ 社内試験の実施
- ⑤ 社外の試験の活用
- ⑥ 日常業務の観察
- ⑦ 個人・職場の業績(経済的効果)
- ⑧ 外部機関へ依頼

2

ステップ2 「理想の人材像」の 策定とギャップの把握

理想の人材像・能力要件の策定

- 「理想の人材像(目標レベル)」を、①企業理念や経営戦略に連動した形で設定、もしくは、②従業員の現況の能力を把握し、不足している能力を補えた状態を目標レベルとして設定してください。
- 理想の人材像の「能力要件」「能力要件定義書」を策定してください。

ギャップの把握

- 従業員の現況の能力レベルを把握し、能力要件(目標レベル)を策定すると、その能力レベルに差(ギャップ)が存在することが見えてきます。
- この差が教育課題となります。この差が生じている原因を究明することが重要になります。

3

ステップ3 教育カリキュラムの策定

必要な知識・スキルの整理

- 能力要件に基づき、領域別(業務・階層等)に求められる知識やスキルを整理し、体系化してください。

カリキュラムの策定

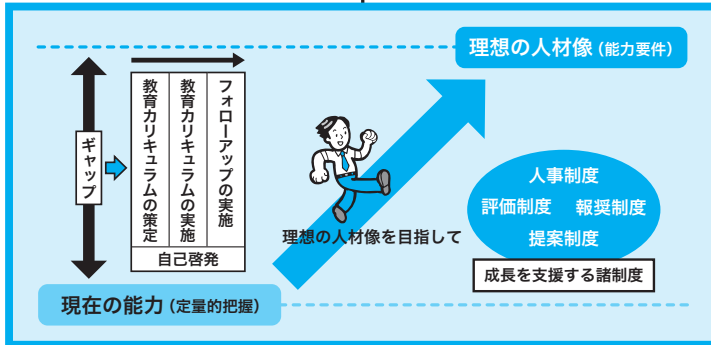
- 従業員の現状の能力と、能力要件(目標レベル)とを比較することにより導き出される知識や技法などを整理し、これらの習得に必要な教育カリキュラムを策定します。

<カリキュラム策定のポイント>

- ① 日常業務の観察、アンケートの実施、従業員面談等による必要な知識や技法の発見
- ② 外部機関が実施しているセミナーや研修メニューを参照
- ③ 外部機関へ依頼

教育訓練方法の選択

- 教育訓練方法には、主にOJT(On the Job Training)と、Off-JT(Off the Job Training)があります。実施する際のメリット・デメリットを考慮し、使い分けて実施してください。



4

ステップ4 教育カリキュラムの実施

OJT 実施のポイント

- 日常業務の中でOJTが効率的に行われるためには、環境を整備する必要があります。
- <実施時のポイント>
- ① 基本的方針(目的・目標)や、OJTの考え方を周知させる。
 - ② 実施手順を周知させる。
 - ③ 指導にあたる従業員(指導者)への教育訓練を実施する。
 - ④ 円滑に実施できるよう、ツール整備(例:マニュアル作成)を行う。

Off-JT 実施のポイント

- 教育訓練には様々な方法(集合研修、通信教育、e-ラーニング等)があり、それぞれの特徴(メリット・デメリット)を理解し、組合せながら効果を最大限にすることが重要です。
 - 自社内に社内講師がいない場合は、外部の教育機関や外部講師を活用してください。
- <実施時のポイント>

- ① 研修参加者の動機づけや、参加者が実施前に準備ができるように、事前に開催通知や呼びかけを行う。
- ② 予算面の制約を考慮しながら、時間的、空間的、環境的要素を配慮し、教育研修の効果が期待できる研修施設を選定する。
- ③ 研修施設担当者や講師との打合せを密に行う。
- ④ テキストや教材を準備する。
- ⑤ 備品(プロジェクター、ホワイトボード等)を準備する。

5

ステップ5 教育カリキュラムの 評価とフォローアップ

評価

- 教育訓練の後に理解度や目標達成度等について評価する必要があります。
- 教育訓練を実施した直後に、その効果が現れることは期待できません。そのため、教育訓練終了後、ある一定期間を経過してから事後評価を実施してください。
- 事後評価の指標としては、「理解度」、「実践度」、「貢献度」等が考えられます。

<事後評価方法>

- ① 評価シートの作成・活用
- ② アンケートの実施
- ③ 従業員面談の実施
- ④ 社内試験の実施
- ⑤ 社外の試験の活用
- ⑥ 日常業務の観察
- ⑦ 個人・職場の業績(経済的効果)
- ⑧ 外部機関へ依頼

教育カリキュラム等の見直し

- 従業員の能力評価だけでなく、教育カリキュラム、講師、教材等についても評価や見直しを行ってください。

フォローアップの実施

- 従業員が教育訓練の内容を十分に理解し、それを業務で活かすことができているのかを、一度振り返って再確認する必要があります。

6

ステップ6 従業員の成長を支援する 体制整備

教育訓練の継続的实施

- 教育訓練を通じて、従業員の「やる気」を喚起させ、日々の成長を実感できるようにすることが大切です。また、従業員の成長とともに目標レベルが上がり、新たな課題が発生します。
- そのため「教育予算」を継続的に確保し、教育訓練を実施することによって解決する必要があります。

諸制度の構築

- 従業員を継続的に支援するための諸制度を構築することが重要になります。これにより社内・職場が活性化され、従業員のモチベーション向上が図られます。さらには、企業全体に教育する風土が構築されることにも繋がります。

<例>

- ① 自己啓発への援助制度の構築
- ② 評価制度、表彰制度・昇給・昇格制度、提案制度等の構築等

教育部門・教育スタッフの配置

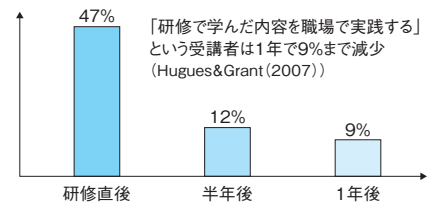
- 教育訓練が継続的、効果的に行われるために、教育部門・教育スタッフを配置することが重要です。専属の部門やスタッフを配置することが困難な場合は、定期的に人材育成や教育訓練について検討を行う機会を設けてください。

研修効果を最大化するための職場のサポート

研修効果を最大化するためには、職場の協力が不可欠です。ここでは、「どのようなサポートが職場で必要か」を考えます。

1 やりっぱなし研修になっていないですか？

研修は学んだことを実務で活かすことが目的ですが、研修参加者、上司（職場）、人材育成担当者（企画者）も研修を行うこと自体が目的化することがあります。研修で学んだ内容を職場で実践できる研修参加者は半年後で約12%、1年後に9%としかいないと言われています。



2 研修前後の上司（職場）のサポートの重要性を理解する

海外の調査によると、研修前後の上司（職場）のサポートが研修参加者の行動変容（実務での実践）につながる度合いが高いという結果が出ています。

	実際に使用されている項目	本来、影響をあたえる項目
1	研修中 × 講師	研修前 × 職場
2	研修前 × 講師	研修前 × 講師
3	研修中 × 学習者	研修後 × 職場
4	研修後 × 学習者	研修中 × 講師
5	研修前 × 職場	研修中 × 学習者
6	研修中 × 職場	研修後 × 学習者
7	研修後 × 講師	研修前 × 学習者
8	研修前 × 学習者	研修中 × 職場
9	研修後 × 職場	研修後 × 講師

1：高い、9：低い
Broad&Newstrom(1992)を基に作成

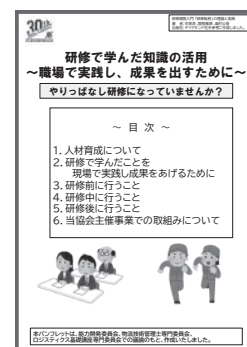
3 研修前に職場でできることは何？

- 1) 上司（職場）と研修参加者の面談の実施。
➡何を学んでほしいかのすり合わせを必ず実施。
- 2) 研修に関する案内の工夫（人材育成担当者および上司（職場））。
➡現場を離れて教育訓練に参加することを研修参加者へ強く発信。
- 3) 事前学習を行う仕掛けづくり。
➡上司（職場）は研修参加者に対し、事前学習ができる機会を提供。
- 4) 職場の環境づくり。
➡研修参加者と上司（職場）がコミュニケーションを取りやすい環境を用意することが重要。

4 研修後に職場でできることは何？

- 1) 上司（職場）と研修参加者の面談の実施
➡何を学んだか、どのように業務で活用したいかを確認。
- 2) 機会の提供
➡学習したことを活かせる業務を提供。
- 3) 実践のための支援
➡学んだことを活かして実践するためのコーチングやフィードバックを実施。

HPよりパンフレットをダウンロードできます。ぜひ、活用ください。



研修の前段階から研修参加者、上司（職場）が「実践し、成果をあげる」というゴールを見据え、共有することが重要

人材育成モデルイメージ

荷主企業向け

階層区分	到達レベル	基礎	実践	応用
経営幹部 (経営者・役員)	基礎		財務諸表を分析し、自社の課題を発見することができる	リスクを想定した拠点の最適化、資産戦略、ネットワークの企画・立案ができる
	実践		ロジスティクス経営士資格認定講座 グローバル 物流機能 CSR 組織・人材	
中間管理職 (部長・課長)	基礎	適切な管理指標を設定し、サービスレベルの設定、委託先・外注先の業務指導ができる	部門間の調整を行い、在庫の適正化、トータルコストの低減化ができる	社内外のニーズに対応した物流システム、共同物流の企画・立案ができる
	実践	物流技術管理士資格認定講座 グローバル 物流機能 CSR		
	実践	ストラテジックSCMコース グローバル CSR		
	実践	国際物流管理士資格認定講座 グローバル 物流機能 CSR 組織・人材		
	実践	物流現場改善士資格認定講座 物流機能		
中堅 (係長・主任)	基礎	コスト構造を理解し、物流・ロジスティクスの適切な業務管理ができる	委託先、外注先の業務を理解し、適切な業務管理ができる	物流ABC等の手法による業務改善、委託先との協働化を推進出来る
	基礎	物流の各機能、物流機器、情報システムの知識を有し適切な運営管理ができる	必要な分析手法を有し、コスト分析、適正在庫の算出ができる	実効性のある改善企画を立案し、物流センターの管理、運営ができる
	実践	ストラテジックSCMコース グローバル CSR		
	実践	国際物流管理士資格認定講座 グローバル 物流機能 CSR 組織・人材		
	実践	物流現場改善士資格認定講座 物流機能		
新任・新人	基礎	物流・ロジスティクスの関連法規、基礎知識を有し、自社物流の基本的な運用ができる	自社業務の運用における課題の抽出まで出来る	
	実践	ロジスティクス基礎講座 グローバル 物流機能		
	実践	国際物流管理士資格認定講座 グローバル 物流機能 CSR 組織・人材		

※貴社の目指すべき人材育成を達成するためにJILSの各種講座やセミナー等をご活用ください

ロジスティクス ⇒ 主要領域 各主要領域の詳細は、「業務を遂行するために習得すべき主な知識・技術」(荷主企業向け：8～9ページ)をご参照ください。

物流企業向け

階層区分	到達レベル	基礎	実践	応用	
経営幹部 (経営者・役員)			財務諸表を分析し、自社の課題を発見することができる	リスクを想定した拠点の最適化、資産戦略、ネットワークの企画・立案ができる	
			ロジスティクス経営士資格認定講座 グローバル 09 スティクス グローバル パートナーシップ 物流機能 CSR 組織・人材		
中間管理職 (部長・課長)		適切な管理指標を設定し、サービスレベルの設定、委託先・外注先の業務指導ができる	顧客との調整を行い、在庫（現品管理）の適正化、トータルコストの低減化ができる	顧客のニーズに対応した物流システム、共同物流の企画・立案ができる	
			物流技術管理士資格認定講座 グローバル 09 スティクス グローバル パートナーシップ 物流機能 CSR		
		ストラテジックSCMコース グローバル 09 スティクス グローバル CSR			
		国際物流管理士資格認定講座 グローバル 09 スティクス グローバル 物流機能 CSR 組織・人材			
		物流現場改善士資格認定講座 09 スティクス 物流機能			
中堅 (係長・主任)		コスト構造を理解し、物流・ロジスティクスの適切な業務管理ができる	顧客委託業務に係る外注先の業務を理解し、適切な業務管理ができる	物流ABC等の手法による業務改善、顧客との協働化を推進出来る	
		物流の各機能、物流機器、情報システムの知識を有し適切な運営管理ができる	必要な分析手法を有し、コスト分析、物流KPIによる業務評価ができる	実効性のある改善企画を立案し、物流センターの管理、運営ができる	
		ストラテジックSCMコース グローバル 09 スティクス グローバル CSR			
		国際物流管理士資格認定講座 グローバル 09 スティクス グローバル 物流機能 CSR 組織・人材			
		物流現場改善士資格認定講座 09 スティクス 物流機能			
新任・新人		物流・ロジスティクスの関連法規、基礎知識を有し、顧客物流の基本的な運用ができる	顧客からの受託業務運用における課題の抽出まで出来る		
		ロジスティクス基礎講座 グローバル 09 スティクス 物流機能			
		国際物流管理士資格認定講座 グローバル 09 スティクス グローバル 物流機能 CSR 組織・人材		※貴社の目指すべき人材育成を達成するためにJLSの各種講座やセミナー等をご活用ください	

09 スティクス ⇒ 主要領域 各主要領域の詳細は、「業務を遂行するために習得すべき主な知識・技術」（物流企業向け：10～11ページ）をご参照ください。

業務を遂行するために習得すべき主な知識・技術

荷主企業向け

物流・ロジスティクス・サプライチェーンマネジメントに関する「業務を遂行するために習得すべき主な知識・技術」の一例を示しています。

貴社にとって必要なテーマ、習得が望ましいと思われる知識・技術について選定のうえ、人材育成・教育にお役立てください。

階層区分	役割	サプライチェーン	ロジスティクス	グローバル
経営幹部 (経営者・役員)	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営計画の立案・承認 ● 需要に応じて、調達・生産・販売・物流や回収・廃棄等の活動を同期化させる仕組みを構築する(他部門との連携強化)。 ● 流通在庫の最少化を図る。 ● 戦略的パートナーの選定と連携 ● SCM やロジスティクス戦略の立案能力 ● SCM の評価 ● 新任の経営幹部に必要な知識や能力の修得 	<ul style="list-style-type: none"> ・資産戦略(在庫、アセット等) ・商品政策/商品化計画 ・経営指標[ROA *1・CCC *2等]管理 ・収支損益管理 ・S&OP(*3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロジスティクスネットワーク設計/構築 ・荷主間連携 ・サービス戦略 ・拠点の最適化(統廃合/新設) 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルサプライチェーン戦略 ・グローバルネットワーク設計/構築 ・グローバルパートナー選定 ・海外拠点運営戦略(組織体制構築)
中間管理職 (部長課長)	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営の視点を常に意識して考える。 ● 顧客の注文に応えられるサービスレベルに適した物流システムの構築(拠点設置等)を行う。 ● 部門間の調整を行い、適正在庫の設定・維持管理を行う。 ● 売上高対物流コスト比率の最少化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在庫管理(応用) ・在庫管理システム構築 ・供給計画(応用)(PSI *4) ・需要計画/予測 ・SWOT(*5)分析 ・外部環境分析(マイクロ、マクロ) ・AI・IoT ・ブロックチェーン 	<ul style="list-style-type: none"> ・共同物流構築 ・物流センター企画・設計 ・物流情報システム企画・設計 ・トータル物流コスト改善 ・ロジスティクス KPI 設計 ・サービスレベル設定 ・最適化手法(OR*7) ・物流コスト管理(応用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地物流/ビジネス環境分析 ・現地委託先管理 ・関連法規 ・現地法人の人材マネジメント ・グローバル 3PL
中堅 (係長)	<ul style="list-style-type: none"> ● 物流・ロジスティクスに関する専門知識や管理技術を有し、コスト適正化や効率化に向けた施策の立案及び推進をする。 ● 物流・ロジスティクスに関する定量的な指標を用いて物流業務を管理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在庫管理(実践) ・供給計画(実践)(PSI *4) ・在庫管理システム ・TOC(*6) ・AI・IoT 	<ul style="list-style-type: none"> ・機能別物流コスト改善 ・物流ABC(*8) / ABM(*9) ・改善手法(応用) ・業務標準化 ・物流センター管理(保管・荷役コスト・品質) ・物流コスト管理(実践) ・RPA(*10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出入業務改善 ・輸出入業務(応用) ・リスクマネジメント ・BCP(*11)
中堅 (主任)	<ul style="list-style-type: none"> ● 物流業務に関する管理手法を有し、適切な現場運営管理を行う。 ● 物流現場改善に関する分析手法、改善技法を有し、実効性のある現場改善策を企画する。 ● 問題点や改善効果を定量的に捉え、関係者の理解や協力を得ながら、改善を実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在庫管理(基礎) ・供給計画(基礎)(PSI *4) ・受発注システム 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善手法(基礎) ・物流センターの運営/管理(人時生産性・スペース効率) ・物流コスト管理(基礎) ・サービスレベル分析 ・物流情報システム(概要) 	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出入業務(実践) ・貿易貨物保険
新任・新人	<ul style="list-style-type: none"> ● 物流、ロジスティクスに係る用語を適切に理解する。 ● 物流、ロジスティクスの基礎知識を有し、ロジスティクス全体の中で、担当業務の役割等を理解する。 ● 問題点や改善効果を定量的に捉えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーン概論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロジスティクス・物流概論 ・物流センター基本機能 ・製品/商品特性 ・物流業界基礎知識 ・受発注業務 	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出入業務(基礎) ・輸送システム(海上、航空等)

パートナーシップ	物流機能	CSR(*21)	組織・人材	用語
<ul style="list-style-type: none"> ・戦略(社内・社外) ・戦略的 3PL ・荷主連携 		<ul style="list-style-type: none"> ・CSR(*21)経営 ・コンプライアンス経営 ・環境政策 ・SDGs(*24) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材採用・育成計画 ・組織設計 	<ul style="list-style-type: none"> 1: Return On Asset 2: Cash Conversion Cycle 3: Sales and Operations Planning 4: Procurement/ Production Sales Inventory 5: Strength Weakness Opportunity Threat 6: Theory of Constraints 7: Operations Research 8: Activity Based Costing 9: Activity Based Management 10: Robotic Process Automation 11: Business Continuity Plan
<ul style="list-style-type: none"> ・委託先選定(RFP *12 作成) ・契約条件設定 ・委託先業務管理 ・委託先管理指標設定 ・CPS (*13) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動化企画・設計 ・モーダルシフト企画・設計 ・ユニットロードシステム企画・設計 ・包装設計(VA*14/VE*15)と包装技法 ・WMS(*16)企画、選定 ・TMS(*17)企画、選定 ・マテハン企画、選定 ・物流 DX (*23) 	<ul style="list-style-type: none"> ・BCP(*11)対策の立案 ・リスクマネジメント(実践/応用) ・コーポレートガバナンス ・内部監査 ・内部統制 ・コンプライアンス ・関連法規(収集/教育) 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織・人材の能力開発 ・労働力不足対応 ・人材採用、育成計画立案 ・組織、人事マネジメント ・コーチング/チームビルディング ・RPA(*22) 	<ul style="list-style-type: none"> 12: Request For Proposal 13: Cyber-Physical System 14: Value Analysis 15: Value Engineering 16: Warehouse Management System 17: Transportation Management System 18: Industrial Engineering 19: Quality Control 20: Quality Cost Delivery Safety Morale 21: Corporate Social Responsibility 22: Robotic Process Automation 23: Digital Transformation 24: Sustainable Development Goals
<ul style="list-style-type: none"> ・委託先との協働化推進 ・委託先業務指導 ・プラットフォーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善手法(応用)(VA/VE) ・分析手法(応用) ・管理手法(実践・応用) ・標準時間設定 ・デジタルデータの解析・評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・法令順守管理手法 ・リスクマネジメント(基礎) ・環境負荷低減 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成 ・労務管理 	
<ul style="list-style-type: none"> ・委託先管理(調整・探索など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善手法(実践)(IE *18、QC *19) ・分析手法(実践) ・管理手法(基礎)(QCDSM*20) ・IoT(コト・モノのデジタル化) 	<ul style="list-style-type: none"> ・法令順守運用手順 ・各種保険 ・安全管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決(実践/応用) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・委託先対応 ・委託契約方式 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善手法(基礎) ・分析手法(基礎) ・業務知識[荷役、輸配送、包装/梱包] ・5S ・マテハン 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連法規(基礎) ・リスクマネジメント(概論) ・環境概論 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決(基礎) 	

物流企業向け

物流・ロジスティクス・サプライチェーンマネジメントに関する「業務を遂行するために習得すべき主な知識・技術」の一例を示しています。

貴社にとって必要なテーマ、習得が望ましいと思われる知識・技術を選定のうえ、人材育成・教育にお役立てください。

階層区分	役割	3PL/ ロジスティクス/サプライチェーン	パートナーシップ	グローバル
経営幹部 (経営者・役員)	<ul style="list-style-type: none"> 経営計画の立案・承認 顧客の注文に応えられるサービスレベルに適した物流システムの構築(拠点設置等)を行う。 自社の企業価値を高める。 次経営幹部の育成 経営資源(ヒト・モノ・カネ)の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 経営指標[ROA *1・CGC *2等]管理 ロジスティクスネットワーク設計/構築 SCM改革 拠点の最適化(統廃合/新設) 共同物流戦略 商品企画、開発 	<ul style="list-style-type: none"> 内外作戦略 戦略的パートナーシップ 荷主連携 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルネットワーク設計/構築 海外拠点戦略(組織体制構築) カントリーリスク管理 現地法人設立
中間管理職 (部長・課長)	<ul style="list-style-type: none"> 経営の視点を常に意識して考える。 課(ライン)の運営ビジョンの策定 物流・ロジスティクスに関する専門知識や管理技術を有し、コスト低減や効率化に向けた施策の立案及び推進をする。 物流・ロジスティクスに関する定量的な指標を用いて物流業務を管理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 先端SCM動向把握 事業/物流特性把握 物流センター立上げ 共同物流推進 物流センター設計 物流情報システム要件設計 ロジスティクスKPI設定 物流センター管理(保管・荷役コスト・品質) 荷主在庫マネジメントの理解と改善 物流コスト管理(応用) AI・IoT 	<ul style="list-style-type: none"> 委託先選定(RFP*4作成) 契約条件設定 委託先管理指標設定 委託元協業体制 GPS(*5) 	<ul style="list-style-type: none"> 現地物流/ビジネス環境分析 現地委託先管理 関連法規 現地法人の人材マネジメント
中堅 (係長)	<ul style="list-style-type: none"> 物流業務に関する管理手法を有し、適切な現場運営管理を行う。 リーダーの大切さ(なぜ、リーダーが必要なのか?) 	<ul style="list-style-type: none"> 改善手法(実践/応用) 物流コスト管理(実践) 生産管理(実践/応用) TOC(*3) AI・IoT 	<ul style="list-style-type: none"> 委託元管理(調整・連携など) 委託先業務管理・指導 プラットフォーム 	<ul style="list-style-type: none"> 現地法人の収支管理 輸出入業務(応用)
中堅 (主任)	<ul style="list-style-type: none"> 物流現場改善に関する分析手法、改善技法を有し、実効性のある現場改善策を企画する。 問題点や改善効果を定量的に捉え、関係者の理解や協力を得ながら、改善を実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善手法(基礎) 物流センターの運営、管理(人時生産性・スペース効率) 物流コスト管理(基礎) 在庫管理(実棚管理) 物流情報システム(概要) 生産管理(基礎) 	<ul style="list-style-type: none"> 委託先業務連携/コミュニケーション 契約交渉 	<ul style="list-style-type: none"> 輸出入業務(実践) 貿易貨物保険
新任・新人	<ul style="list-style-type: none"> 物流、ロジスティクスに係る用語を適切に理解する。 物流、ロジスティクスの基礎知識を有し、ロジスティクス全体の中で、担当業務の役割等を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> SCM/ロジスティクス/物流概論 物流センター基礎知識 物流業界知識 物流コスト(基礎) 自社商品特性理解 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客対応 委託先対応 委託契約方式 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルロジスティクス(概論) 輸出入業務(基礎) 輸送システム(陸上、海上、航空)

物流機能	CSR(*13)	営業	組織・人材	用語
<ul style="list-style-type: none"> ・資産戦略(拠点、車輛等) ・自社ネットワークの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・CSR(*13)経営 ・コーポレートガバナンス ・コンプライアンス経営 ・環境政策 ・BCP(*14)対策立案 ・SDGs(*17) 	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング戦略 ・異業種交流 ・提案営業の仕掛けづくり・展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材採用・育成方針設計 ・組織設計 ・ダイバーシティ経営 	<ul style="list-style-type: none"> 1: Return On Asset 2: Cash Conversion Cycle 3: Theory of Constraints 4: Request For Proposal 5: Cyber-Physical System 6: Value Analysis
<ul style="list-style-type: none"> ・自動化企画・設計 ・モーダルシフト企画・設計 ・ユニットロードシステム企画・設計 ・包装設計(VA*6/VE*7)と包装技法 ・WMS(*8)企画、選定 ・TMS(*9)企画、選定 ・マテハン企画、選定 ・物流DX(*16) 	<ul style="list-style-type: none"> ・法令順守の管理方法 ・物流政策のキャッチアップ ・関連法規(収集/教育) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業特性分析(荷主企業の業界/組織特性等) ・営業先探索 ・売上目標管理 ・財務諸表/経営指標 ・営業計画の立案、実行 ・営業所マネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織・人材の能力開発 ・労働力不足対応 ・人材育成・改善 ・組織、人事マネジメント ・コーチング/チームビルディング ・現場リーダー育成手法 ・コミュニケーション手法 ・メンタルヘルスマネジメント ・RPA(*15) 	<ul style="list-style-type: none"> 7: Value Engineering 8: Warehouse Management System 9: Transportation Management System 10: Industrial Engineering 11: Quality Control 12: Quality Cost Delivery 13: Corporate Social Responsibility 14: Business Continuity Plan
<ul style="list-style-type: none"> ・改善手法(応用)(VA/VE) ・分析手法(応用) ・管理手法(実践・応用) ・標準時間設定 デジタル ・見積単価設定 ・荷役稼働管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境指標(CO₂等)算出手法 ・非正規社員雇用関連法令 ・ISO認証取得 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規顧客開拓 ・提案営業(実践/応用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・労務管理 ・チームリーダー育成 ・非正規社員雇用管理 	<ul style="list-style-type: none"> 13: Corporate Social Responsibility 14: Business Continuity Plan
<ul style="list-style-type: none"> ・改善手法(実践)(IE*10、QC*11) ・分析手法(実践) ・管理手法(基礎)(QCDSM*12) IoT(コト・モノのデジタル化) ・棚卸業務管理 ・配車管理 運行管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・法令遵守運用手順 ・安全管理 ・関連法規(実践) ・各種保険 ・環境概論 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案営業(基礎) ・物流営業(実践・応用) ・見積書作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームビルディング ・課題解決(実践/応用) 	<ul style="list-style-type: none"> 15: Robotic Process Automation 16: Digital Transformation 17: Sustainable Development Goals
<ul style="list-style-type: none"> ・改善手法(基礎) ・分析手法(基礎) ・業務知識[荷役、輸配送、包装/梱包] ・5S ・マテハン 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策手順 ・リスクマネジメント(概論) ・関連法規(基礎) 	<ul style="list-style-type: none"> ・物流営業(基礎) ・契約方式 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決(基礎) 	

国際物流強靱化の推進

資格認定講座・セミナー

●国際物流管理士資格認定講座

- ◆ 国際物流のスペシャリストとして必要な専門知識を総合的、体系的に学べる資格認定講座です。

●新任担当者のための国際物流基礎セミナー

- ◆ 初めて国際物流に携わる方々を対象に、国際物流の基礎を体系的に学びます。

研究会

●国際物流強靱化推進研究会

- ◆ 開催時期 2024年6月～2025年3月（全10回）
- ◆ 活動目的
荷主企業（製造業主体）として事業の継続・持続性を高めるため、国際物流の強靱化に向けて関係者間で取り組み等の共有および協調・連携すべき事項等に関する検討、検証、実証を行い、その結果を普及します。
- ◆ 参加対象
・ 荷主企業（製造業主体）SCM・ロジスティクス・物流部門、事業部門等の管理者
・ 荷主企業に解決策を提案できるソリューション／システムベンダー等の管理者、担当者

ASEANにおける物流人材育成 【資格認定講座】

●タイ ロジスティクス管理士資格認定講座

- 1) 講座名称 : Logistics Qualification System Program (LQSP PLUS)
- 2) 開催予定 : 2024年9月開講(予定)
- 3) 開催地 : タイ・バンコク
- 4) 言語 : タイ語

※詳細はタイ荷主協議会(TNSC)のホームページをご参照ください。
<http://www.tnsc.com/>

●インド 物流現場改善士資格認定講座

インドは人口規模の大きさ、高い経済成長率、中間層・富裕層の増大等により消費市場としての魅力度が高い。さらには、欧州・アフリカとアジアとの中間に位置するサプライチェーンの要所になっている。インドで事業を展開するうえで物流がボトルネックにならないためには高度化する顧客からの要求に対応できる人材や、物流現場を支える人材等、物流人材を育成する環境を早急に整備する必要がある。本講座はインドの物流現場の改善指導ができる人材育成の環境整備を目的に経済産業省の委託事業にて日本ロジスティクスシステム協会(JILS)及び日本人専門家の協力により、CII-ILが新たに構築した倉庫管理に関する資格認定講座であり、中間管理者、現場リーダー向けに実施されるものである。

- 1) 講座のねらい: 物流現場の生産性向上を行う改善の視点を持ち、改善指導ができる物流現場改善リーダーを育成する。
- 2) 講座名称 : Certified Warehouse Kaizen Practitioner
- 3) 会期 : 2024年に2回程度実施(予定)
- 4) 受講料 : INR 17,700 (Inclusive of GST) per person
- 5) 受講対象者 : 管理層(マネージャーレベル)、物流現場リーダー
- 6) 開催地 : インド(オンライン開催)
- 7) 言語 : 英語
- 8) 主催 : インド工業連盟(Confederation of Indian Industry - Institute of Logistics : CII-IL)
- 9) 問合せ先 : Mr. Charles Arul Dawson (Deputy Director)
charles.apk@cii.in

※詳細はインド工業連盟(Confederation of Indian Industry - Institute of Logistics : CII-IL)のホームページをご覧ください。
<http://ciiilogistics.com/edu-progkaizen.html>

海外人材育成支援ツール

●物流教育DVD

【英語ナレーション付】

- ◆ 海外現地法人のスタッフ教育の際にお使いください。
- ◆ 収録時間 約25分。

- ①正しい荷扱いとは
- ②正しい現品管理とは



●物流現場改善推進のための手引書

【英語版・ベトナム語版・タイ語版】

- ◆ 海外現地法人において物流現場改善活動を推進する際にお使いください。

英語版
ベトナム語版
タイ語版



物流現場改善活動の推進

JILSは、物流現場改善活動を応援する取り組みを実施しております。貴社の物流現場改善活動のフェーズにあわせ、JILSの活動をご活用ください。

現場活性サイクル

現場活性サイクルは物流現場改善への取り組みを4つのプロセスに分け、各プロセスに合わせた改善活動を示します。JILSでは物流現場改善活動を現場活性サイクルに沿って展開していくことを推奨しています。

Award: 評価・報奨

情報共有された改善の成果に対し、社内外での評価・報奨を行い、物流現場改善活動のモチベーション向上を図る段階。自社内にとどまらず、社外へも広く顕彰されることが求められます。

● 物流改善賞

企業のきわめて優れた物流改善の取り組みとその優れた実績を顕彰しています。

38ページ参照

● 物流現場改善優良認定制度

物流現場改善に積極的に取り組む企業を認定する制度です。

WEBページはコチラ



See: 情報共有・横展開

物流現場改善活動が継続的に実施されている状況で、成果を情報共有し、横展開する段階。この成果をきっかけに、他の現場へ波及効果をもたらす、新たな物流現場改善活動へつなげることが求められます。

● 全日本物流改善事例大会

多数の応募事例のなかから選考された優秀事例が2日間にわたって発表されます。

38ページ参照

● 関西・中部・九州 改善事例発表会

38ページ参照



● 活用例については
こちらをご覧ください

JILSのウまい使い方



Mind: 気付き・問題点把握

物流現場改善活動が実施されていない状況で、改善の必要性を理解し、どこに問題点があるのか、把握する段階。物流現場改善活動へのきっかけ作りが求められます。

● 物流現場改善推進のための手引書

「問題発見チェックリスト」など、物流現場力強化のためのヒントが満載です。

ダウンロードはコチラ



● 物流改善診断・チェックリスト

物流現場リーダーとしての自己評価ができます。

WEBページはコチラ



Improve: 改善活動

問題点を把握し物流現場改善活動を実施する状況で、正確な目標設定や体系的なアプローチを通じて、PDCAサイクルで物流現場改善活動を実施する段階。物流現場改善活動の成果と物流現場改善活動の定着が求められます。

● 物流現場改善士資格認定講座

22ページ参照

● セミナー

24ページ参照

- ・輸配送効率化実践セミナー
- ・「問題発見」実践セミナー
- ・「問題解決の実践」セミナー
- ・物流現場改善のすすめ方
- ・物流センターの管理・レイアウト設計改善セミナー
- ・「しってるをしてるに！トヨタ式物流改善の極意」セミナー

● 社内教育・コンサルティング

34、35ページ参照

● 物流現場改善推進ポータルサイト (WEB)

物流現場改善に係る手引きや調査結果はコチラから。コラム「物流改善のすすめ」も掲載。

WEBページはコチラ



● 物流現場改善事例集 (WEB)

全日本物流改善事例大会にて発表された200を超える優秀事例が検索できます。

WEBページはコチラ



サプライチェーンマネジメント (SCM) の推進

人材育成 (コース・セミナー)

● ストラテジックSCMコース

- ◆ 戦略的な視点から、経営科学的なアプローチを含めた最新のSCMを学ぶコースです。
- ◆ グループ演習で日本のSCMの問題構造を明らかにし解決策を検討します。

2024年度開催予定 : 第29期 2024年 4月 - 2024年 9月 集合(東京)+オンライン
 第30期 2024年10月 - 2025年 3月 集合(東京)+オンライン
 ※毎週金曜日19時~ 21時(2時間) 全20日間+修了発表会



● 『超』入門! SCM シリーズ

- ・「『超』入門シリーズ」は4つのモジュールで構成されたサプライチェーンマネジメント (SCM) の入門セミナー群です。SCMの「設計・計画・実行」それぞれの業務領域に求められる「観点」と「基礎知識」の習得を目指しつつ、相互の関連性を同時に学びます。また、これらのモジュールはいずれも世界標準のSCMにおける世界観に準拠していますので、はじめてSCMの世界に足を踏み入れた方も、すでに実務経験を積まれた方も、受講後は本セミナーの内容を「共通言語」としてご活用いただける点にも特徴があります。

<p>『超』入門! 世界標準の SCMセミナー</p> <p>世界標準のSCMの世界観と基礎知識の全体像を俯瞰的に学習することを狙いとしたジュールです。シリーズの最初に受講することをおすすめします。</p>	<p>『超』入門! メーカーの SCMセミナー</p> <p>「実行」および「計画」領域の観点よりSCMを学びます。このモジュールでは「マテリアルズ・マネジメント(生産管理)」を学びます。</p>	<p>『超』入門! 組織の壁を突破する S&OPセミナー</p> <p>「計画」「戦略」領域の観点よりSCMを学びます。ROIを主軸に経営資源の配分に関する意思決定に寄与する提言のポイントを併せて学習します。</p>	<p>『超』入門!戦略的 サプライチェーン 設計セミナー</p> <p>「戦略・設計」領域の観点よりSCMを学びます。唯一の正解が存在しない世界で道筋を示すための整理軸と考慮すべき基本的なポイントを学習します。</p>
--	---	---	--

● SCM 専門セミナー

<p>サプライチェーン 構造改革セミナー</p> <p>SCMの基本的な考えからSCM改革の進め方までを幅広く学習し、事例を交えた実践的な研修です。</p>	<p>需要予測の基本</p> <p>ビジネスにおける需要予測で重要となる3つの学問(統計学・認知科学・経営学)の知見も交え、グローバル標準の知識と実務で有効なマインドを学びます。</p>	<p>梱包・包装最適化による 物流コスト削減 実践セミナー</p> <p>デザイン・フォー・ロジスティクス(DFL:Design for Logistics)という考え方のもと梱包・包装の設計の見直しによる物流コスト削減のポイントや、DFL推進のためのステップを講義と演習を交えて学びます。</p>	<p>マーケティング視点による サプライチェーン の考え方</p> <p>顧客目線に立ったSCM実践の手段としてマーケティングの視点を取り入れる際の考え方や、SCMにおける意思決定を行う上で必須となる「組織の壁の克服」について、講師の経験を交えた解説やグループ演習等を通して学びます。</p>	<p>サプライチェーン最適化のためのORモデルによる データ活用セミナー</p> <p>サプライチェーン最適化に用いられる分析手法であるオペレーションズ・リサーチ(OR)のモデルを紹介し、輸配送網の構築や拠点配置の決定などにおいてデータを管理・活用する際に考慮すべき点について、講師の経験や企業事例を交えて解説します。</p>
---	--	--	---	--

● 海外の SCM 資格認定 (参考情報)

<p>ASCMのAPICS SCM資格認定</p> <p>公益財団法人日本生産性本部ホームページ http://apics.jp/</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■CPIM (Certified in Production and Inventory Management) 生産管理や在庫管理におけるプロフェッショナルな能力の基準として世界的に認知されており10万人以上が同資格の認定を受けています。 ■CSCP (Certified Supply Chain Professional) SCMの戦略設計、導入、管理運営に関する主要な概念、それらを合理化や効率の改善のために組織に適用する知識を持っていることを認定する資格です。グローバルなサプライチェーンを意識して作られており、2万人以上が認定を受けています。 ■CLTD (Certified in Logistics, Transportation, and Distribution) グローバルロジスティクスと輸配送を中心とする知識や評価できる能力を持っていることを認定する資格です。 ■SCOR-Professional (Supply Chain Operations Reference-Professional) SCORモデルを用いてグローバルサプライチェーンのパフォーマンスを評価しマネジメントする能力を有することの資格保証 (Endorsement) です。
<p>GSCMPの SCM資格認定</p> <p>https://cscmp.org/</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■SCPro™ Certification SCPro™認定は、統合されたサプライチェーン活動における知識とスキルを評価する3段階プログラムです。ケーススタディ分析とROI向上を達成するための包括的なプロジェクト計画の策定等を通じて、ビジネスチャレンジを戦略的に評価し、サプライチェーンの改善を効果的に実施する能力を検証します。

研究会

- ◆ 参加者相互に情報交流、意見交換出来る場を設け、課題解決のヒントを共有すること及びヒューマン・ネットワークを構築することを目的として開催します。
- ◆ 参加者相互の活発な意見交流の場とすることがねらいとし、参加者全員が情報の“GIVE AND TAKE”の姿勢で臨んでいただくことを基本とします。

● 荷主ミーティング

- ◆ 荷主企業を対象として、各テーマに関するディスカッション、検討結果やメンバー事例発表等を通じて課題解決へのヒントを共有します。

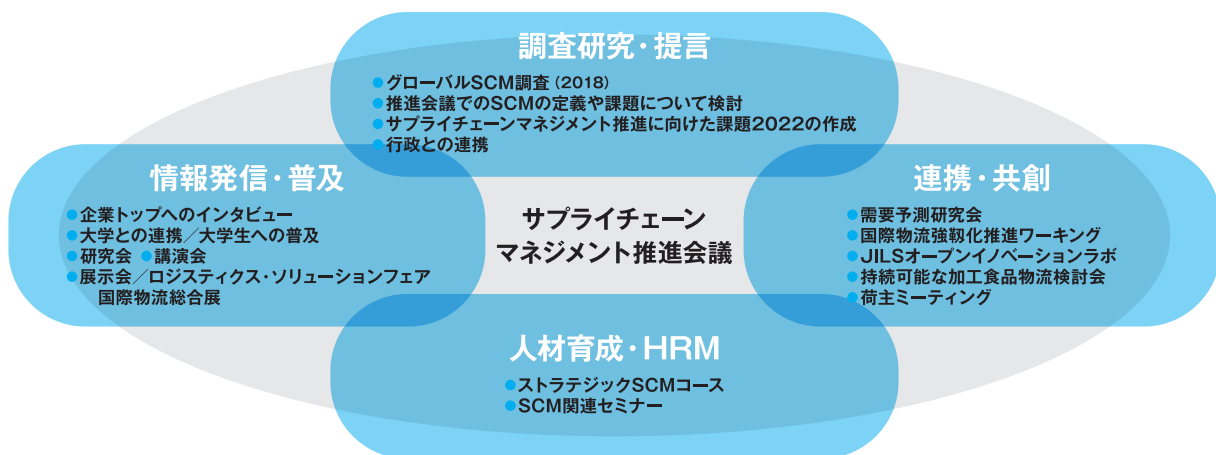
● ～S&OPで経営に貢献する「需要予測研究会」～

- ◆ 概要
 - 1) S&OPを効果的に推進する起点となる需要予測精度を向上させるマネジメントの検証
 - 2) そのための「6つの軸」をフレームワークに、参加企業各社の現状を把握
 - 3) 先進的な事例発表や課題の共有および示唆の提供、人的ネットワークの形成

SCM ACADEMY of JAPAN (SCM-AJ) の活動

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）は、この度、協会内にSCM ACADEMY of JAPAN (SCM-AJ) を設置し、産業界の問題発見と課題解決に寄与すべく、以下の活動を進めてまいります。

- 企業内・外における研究の一助のための「調査研究・提言」
- 最新の情報や技術を収集し普及するための「情報発信・普及」
- 企業間の連携や業種・業態を横断するための「連携・共創」
- 『超』入門！SCMシリーズなど、SCMの高度化に向けての人材育成をはじめとする「HRM (Human Resource Management；人的資源管理)」



本活動の一環として、『サプライチェーンマネジメント推進に向けた課題2022』を冊子として発行することとなりました。本冊子が自社内でSCMの推進に取り組む皆様の参考資料となるようご案内いたします。

<https://www1.logistics.or.jp/news/detail.html?itemid=724&dispmid=703> ▶



SCM-AJでは、SCMの課題に対して次の4つの提案をしており、提案の実現に向け事業の充実に取り組んでまいります。

- 提案1** **SCMの知識を活用し企業同士、産業同士の情報連携を促進しよう！**
これから訪れる比較的近い未来の課題を企業間・産業間の連携によって解決しようというもので、その手段としてSCMの知識を活用することを提案しています。
- 提案2** **行政やアカデミアの領域においてもSCMへの関心を高めよう！**
従来、SCMは民間企業で活用するものと考えられがちでしたが、日本の産業界の発展にはアカデミアや行政の関与が不可欠であると考えます。
- 提案3** **「世界標準のSCM」を活用し日本発の価値を世界中に届けよう！**
せっかく日本企業が持っている特色が宝の持ち腐れとならないよう、世界標準のSCMを学び、価値提供の部分を強化していただきたいという思いがあります。
- 提案4** **これからの「世界標準」を共に作ろう！**
より先の将来を見据えて、日本もグローバルでのルールメイキングに参加することを提案しています。その前提として、本冊子で課題として取り扱った標準化や民間企業同士の連携、また、アカデミアや行政との協調が欠かせません。その意味でこれを最後の提案としました。

講座・コース

日本ロジスティクスシステム協会の資格制度

資格取得者数

階層別

500
名

2002年度～



資格名称

ロジスティクス経営士

Certified Logistics Senior Master

- ◆経営の視点からロジスティクスを捉え、改革を推進することができるCLO(チーフ・ロジスティクス・オフィサー)

物流技術管理士

Certified Logistics Master

- ◆物流・ロジスティクスの専門知識や管理技術を有し、物流品質向上、物流効率化、コストダウン等を実現できるロジスティクスのプロフェッショナル

物流技術管理士補

Certified Assistant Logistics Master

- ◆物流・ロジスティクスに関わる基礎知識を有し、実務への応用の仕方を習得している次世代のロジスティクス・プロフェッショナル

テーマ別

1,640
名

1978年度～



国際物流管理士

International Logistics Master

- ◆国際物流の専門知識を有し、グローバルレベルで全体最適を志向し、幅広い視点で新たな事業やサービスを企画し、実践することができる国際物流のプロフェッショナル

物流現場改善士

Certified Logistics Kaizen Master

- ◆物流現場の現状を把握し、課題を解決するために定量データをもとに改善実行計画を立案し、メンバーと協力しあいながら改善を推進することができる物流現場の改善リーダー

768
名

2010年度～



講座名	ロジスティクス経営士資格認定講座	受講料	JILS会員 : 495,000円 (税込・1名につき) JILS会員外 : 605,000円 (税込・1名につき)
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ロジスティクス関連の実務経験が5年程度ある、部長職クラスまたは部長職候補、ならびに幹部候補の方 物流技術管理士または国際物流管理士の資格取得後、実務を3年以上経験した幹部候補の方 	プログラムの特徴	講義／ケーススタディ／グループミーティング／小テスト 論文試験／面接試験
開催日数	14日間 (予定)	2024年度開講日程	第23期(集合(東京)+オンライン) 2024年10月～2025年3月

講座名	物流技術管理士資格認定講座	プログラムの特徴	講義(全13単元)／受講レポート(前期・後期)／客観試験(前期・後期)／論文試験／面接試験
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 物流に関する基本的な用語を理解している方もしくは 物流技術管理士補の有資格者 	2024年度開講日程	第153期(集合(東京)+オンライン) 2024年6月～2025年1月 第154期(集合(大阪/名古屋)+オンライン) 2024年7月～2025年1月 第155期(集合(東京)+オンライン) 2024年9月～2025年3月
開催日数	18日間		
受講料	JILS会員 : 495,000円(税込・1名につき) JILS会員外 : 605,000円(税込・1名につき)		

講座名	物流技術管理士補資格認定コース	開催日数	2日間
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 産業能率大学が実施する所定の通信教育修了者 東京海洋大学大学院「食品流通安全管理学」講義における所定単位取得者 流通経済大学流通情報学部ならびに大学院物流情報学研究科における所定単位取得者 中央職業能力開発協会が実施するビジネスキャリア検定「ロジスティクス管理」または「ロジスティクス・オペレーション」の2級もしくは3級の合格者かつ、企業等での実務経験を有する方。 ロジスティクス基礎講座の修了者 	受講料	75,900円(税込・1名につき)
		プログラムの特徴	講義／グループ演習／事前課題レポート
		2024年度開講日程	集合(東京) 2024年9月(2日間) オンライン 2025年2月(2日間)

講座名	ロジスティクス基礎講座	プログラムの特徴	講義／事前課題レポート／事後課題レポート
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ロジスティクス関連部門の新入社員・新任担当の方 上記部門以外でロジスティクスの基礎知識を身につけたい方 	2024年度開講日程	第89期(オンライン) 2024年6月～7月 第90期(オンライン) 2024年10月～11月
開催日数	6日間		
受講料	JILS会員 : 88,000円(税込・1名につき) JILS会員外 : 104,500円(税込・1名につき)		

講座名	国際物流管理士資格認定講座	受講料	JILS会員 : 440,000円(税込・1名につき) JILS会員外 : 550,000円(税込・1名につき)
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 国際物流関連業務に従事し2年程度の経験を有する方 国際物流のスペシャリストを志向する方 国際物流に携わる中堅管理者、担当者 	プログラムの特徴	講義(全9単元)／国際物流施設見学／ケーススタディ／レポート試験(全5回)／客観試験
開催日数	19日間	2024年度開講日程	第46期(オンライン) 2024年9月～2025年3月

講座名	物流現場改善士資格認定講座	プログラムの特徴	講義(全5単元)／ケーススタディ・グループディスカッション／レポート試験(全3回)／レポート指導／担当職場の「改善実行計画」の作成
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 製造業・流通業、物流業(運送事業者・倉庫業者等)の物流現場改善のリーダーとリーダー候補で物流に関する基本的な用語を理解している方 	2024年度開講日程	第15期(集合(東京)+オンライン) 2024年6月～2025年2月
開催日数	10日間		
受講料	JILS会員 : 297,000円(税込・1名につき) JILS会員外 : 407,000円(税込・1名につき)		

ロジスティクス経営士資格認定講座

ロジスティクスを経営の視点からデザイン ～エグゼクティブのための専門講座～



概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 実務経験豊富な委員・講師による講義や指導、実践的なケーススタディへの取り組みを通じて、製造業・流通業の物流・ロジスティクス関連部門の責任者や、物流企業の経営幹部に求められる、戦略的思考力、財務分析力、戦略立案力、課題解決力の強化を図ります。 								
資格取得	<ul style="list-style-type: none"> ● 本講座を修了し、所定の試験に合格した方に、「ロジスティクス経営士」の資格が授与されます。 								
受講資格	<ul style="list-style-type: none"> ● ロジスティクス関連の実務経験が5年程度ある、部長職クラスまたは部長職候補もしくは幹部候補の方。 ● 物流技術管理士または国際物流管理士の資格取得後、実務を3年以上経験した幹部候補の方。 								
期待される到達レベル	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営の視点を常に意識して、考えることができる。 ● 財務諸表を分析し、企業の課題を発見することができる。 ● 課題を把握し、優先順位をつけることができる。 ● 課題解決のための方策を立案することができる。 ● 課題解決案を他者に説明し、理解を得ることができる。 ● 自社の業界、自分の立場にとらわれず、自由で柔軟な発想ができる。 								
合格基準	<ul style="list-style-type: none"> ● 資格の合否判定は能力開発委員会 ロジスティクス経営士専門委員会が行い、以下の基準をすべて満たした場合、合格と判定される。 <ol style="list-style-type: none"> ① 講座の修了者であること。 ② 論文試験と面接試験を受験し、その合計点（100点満点）が80点以上であること。 * 配点内訳：論文試験40点／面接試験60点 								
講師	<ul style="list-style-type: none"> ● 各専門分野の第一線の学識経験者、実務家、専門コンサルタント など 								
会期・開催方法・定員	<ul style="list-style-type: none"> ● 6ヵ月間（14日間（予定）） ● 第23期 ● 2024年10月～2025年3月 集合(東京)+オンライン(30名) 								
受講料 (税込：1名につき)	<table border="0"> <tr> <td>① 会員</td> <td>495,000円</td> </tr> <tr> <td>② 会員外</td> <td>605,000円</td> </tr> <tr> <td>③ 有資格者優待（会員）</td> <td>440,000円</td> </tr> <tr> <td>④ 有資格者優待（会員外）</td> <td>550,000円</td> </tr> </table>	① 会員	495,000円	② 会員外	605,000円	③ 有資格者優待（会員）	440,000円	④ 有資格者優待（会員外）	550,000円
① 会員	495,000円								
② 会員外	605,000円								
③ 有資格者優待（会員）	440,000円								
④ 有資格者優待（会員外）	550,000円								

プログラム（2023年度実施のプログラム内容）

【第1単元】 ロジスティクスと経営戦略

1. ロジスティクスと経営戦略
2. SCM概論
3. ロジスティクス戦略に関わるデジタルトランスフォーメーションの現状と方向性について
4. SCM企業事例
5. SCMとベンチマーク

【第2単元】 ロジスティクスと経営管理

1. 財務分析と経営管理指標
2. ロジスティクスと在庫マネジメント
3. ロジスティクスと経営の評価
4. ロジスティクスと経営の評価（企業事例）

【第3単元】 ロジスティクスにおける企業間コラボレーション

- コーディネータ、発表者による講義
- 受講者参加によるディスカッション

【第4単元】 企業経営とGRC

1. 企業経営とGRC（ガバナンス・リスク・コンプライアンス）

【第5単元】 組織の設計

1. 組織の設計と基本デザイン

【第6単元】 ロジスティクスとSDGs

1. ロジスティクスとSDGs

【第7単元】 グローバリゼーション

1. ロジスティクスとグローバリゼーション
2. 企業事例

【第8単元】 ロジスティクスの戦略立案（ケーススタディ）

ケーススタディ

架空企業を題材としたケーススタディ（2つの例題／論文執筆のためのケースブック）に取り組み、ロジスティクスの戦略立案について実践的に学びます。

グループ・ミーティング（全3回）

グループメンバー相互の発表やディスカッション、委員からの指導を通じて自社のロジスティクスの課題を整理し、解決案について検討します。



物流技術管理士資格認定講座

認定者は12,000名以上

物流・ロジスティクスのプロフェッショナルを育成する専門講座

概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 物流技術管理士資格認定講座は、物流管理者および物流技術者として必要な、物流・ロジスティクスの全領域にわたる専門知識およびマネジメント技術を総合的かつ体系的に学ぶ講座です。 ● 製造業・流通業、物流事業者、物流子会社の方を中心として、例年、約400名の方にご受講いただいております。 								
資格取得	● 本講座を修了し、所定の試験に合格した方に、「物流技術管理士」の資格が授与されます。								
資格認定規程(抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ● 会期中(18日間)、14日以上出席すること。 ● 前・後期2回分の受講レポートを提出していること。 ● 客観試験(前・後期に筆記試験を2回実施)、論文試験、面接試験の全てを受験し、それぞれの試験の得点が満点の6割以上であり、かつ、すべての試験の合計点から欠席点と受講レポート遅延の減点を引いた総合点が60点以上であること。 <p>※資格認定規程については、開講式で詳細を説明いたします。ご不明な点は事務局にお問い合わせください。</p>								
受講資格	<ul style="list-style-type: none"> ● 物流に関する基本的な用語を理解している方。もしくは ● 物流技術管理士補の有資格者。 								
講師	● 各専門分野を代表する学識経験者、実務家、専門コンサルタント など								
会期・開催方法・定員	<p>6~7ヵ月間(18日間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第153期 2024年6月~2025年1月 集合(東京)+オンライン(140名) ● 第154期 2024年7月~2025年1月 集合(大阪/名古屋)+オンライン(140名) ● 第155期 2024年9月~2025年3月 集合(東京)+オンライン(140名) 								
受講料(税込:1名につき)	<table border="0"> <tr> <td>①会員</td> <td>495,000円</td> </tr> <tr> <td>②会員外</td> <td>605,000円</td> </tr> <tr> <td>③有資格者優待(会員)</td> <td>440,000円</td> </tr> <tr> <td>④有資格者優待(会員外)</td> <td>550,000円</td> </tr> </table>	①会員	495,000円	②会員外	605,000円	③有資格者優待(会員)	440,000円	④有資格者優待(会員外)	550,000円
①会員	495,000円								
②会員外	605,000円								
③有資格者優待(会員)	440,000円								
④有資格者優待(会員外)	550,000円								

プログラム

【プレミーティング】(2日)

問題の発見と解決(グループ演習)

【第1単元】経営とロジスティクス(1日)

1. 企業価値を高めるロジスティクスの役割
2. ロジスティクスにおける顧客サービス
3. ロジスティクス戦略
4. ロジスティクスIT概論

【第2単元】物流コスト管理(1日)

1. 物流コスト管理概論
2. 物流ABCの活用

【第3単元】物流拠点管理(2日)

1. 保管・荷役とマテハン機器
2. 物流拠点におけるIT活用
3. 生産性と品質管理
4. 物流拠点管理概論(個人演習)

【第4単元】輸配送管理(2日)

1. 輸配送管理概論
2. 輸配送におけるIT活用
3. 輸配送システムの構築(個人演習)

【第5単元】包装技術(0.5日)

1. 包装技術概論

【第6単元】物流現場改善(1.5日)

1. 科学的管理技法概論
2. 物流現場の改善技法(個人演習)

【第7単元】総合演習Ⅰ(2日)

物流改善演習(グループ演習)

【第8単元】在庫管理とSCM(1日)

1. 在庫管理とSCM概論
2. 在庫管理の実務
3. SCMの実務

【第9単元】グローバルロジスティクス(0.5日)

1. グローバルロジスティクス概論

【第10単元】グリーンロジスティクス(0.5日)

1. グリーンロジスティクス概論

【第11単元】物流アウトソーシングと3PL(1日)

1. 物流アウトソーシング、3PL
2. 3PLと契約

【第12単元】ロジスティクスの社会的役割(1日)

1. CSR
2. 標準化
3. 行政の動向

【第13単元】総合演習Ⅱ(2日)

物流改革演習(グループ演習)



物流技術管理士補資格認定コース

概要	<ul style="list-style-type: none"> ロジスティクス構築による経営革新に向けた計画の立案に取り組んでいただくグループ演習をカリキュラムの中心に据えています。 通信教育や講座、講義で学ばれた知識を計画立案時にどのように活用すればよいか、企業事例をベースとしたグループ演習を通じて実践的に経験していただくことを目的としています。
資格取得	<ul style="list-style-type: none"> 事前に課題レポートをご提出いただいた後、本講座に2日間出席し、修了した方に「物流技術管理士補」の資格が授与されます。
受講資格	<ul style="list-style-type: none"> ロジスティクス基礎講座の修了者。 産業能率大学が実施する所定の通信教育修了者。 東京海洋大学大学院「食品流通安全管理学」講義における所定単位取得者。 流通経済大学流通情報学部および大学院物流情報学研究所における所定単位取得者 中央職業能力開発協会が実施するビジネスキャリア検定「ロジスティクス管理」または「ロジスティクス・オペレーション」の2級もしくは3級の合格者かつ、企業等での実務経験を有する方。

会期・開催方法・定員	2024年 9月 (2日間) 集合(東京)(60名) 2025年 2月 (2日間) オンライン(60名)
受講料 (税込:1名につき)	75,900円

プログラム

【第1日目】

- ロジスティクスの重要性と取り巻く環境
- ケーススタディ 【演習】
 - 演習問題の説明
 - グループディスカッション

【第2日目】

- ケーススタディ 【演習】(前日の続き)
 - グループディスカッション
 - グループディスカッション結果発表
 - 講評/解説
- 資格認定証授与

ロジスティクス基礎講座

概要	<ul style="list-style-type: none"> 物流・ロジスティクスに関わる基礎知識や技法を体系的に学習するための講座です。 ロジスティクスの基本から物流現場のオペレーションまで、わかりやすく解説し、実務に直結するカリキュラムになっています。 受講者の方々に講義内容の理解を深めていただくために、課題レポート(前半1回、後半1回)をご提出いただきます。 本講座を修了された方には「修了証」を授与いたします。
修了規程	<ul style="list-style-type: none"> 講座を全日出席し、課題レポート2回を提出すること。
資格取得	<ul style="list-style-type: none"> 本講座を修了後、当協会が主催する「物流技術管理士補資格認定コース」(2日間)を受講され、修了された方には、「物流技術管理士補」の資格を授与いたします。
対象	<ul style="list-style-type: none"> ロジスティクス関連部門の新入社員・新任担当の方。 上記部門以外でロジスティクスの基礎知識を身につけたい方。
講師	<ul style="list-style-type: none"> 各専門分野を代表する学識経験者、実務家、専門コンサルタント など
会期・開催方法・定員	<ul style="list-style-type: none"> 第89期 2024年 6月～ 7月 オンライン(200名) 第90期 2024年10月～11月 オンライン(200名)
受講料 (税込:1名につき)	<ul style="list-style-type: none"> ①会員 88,000円 ②会員外 104,500円

プログラム

- ロジスティクス概論 (1) (2)
- ロジスティクス・オペレーションの基本機能
 - 輸配送 (1) (2)
 - 包装
 - 保管
 - 荷役
 - 情報システム
- 在庫管理
- 物流コスト
- 物流改善
- ロジスティクスの課題と展望

国際物流管理士資格認定講座

国際物流の基本から法規制や最新情報、企業事例を学び、
国際物流のプロフェッショナルを目指す専門講座



概要	● 国際物流管理士資格認定講座は、国際物流プロフェッショナルとして必要な専門知識を総合的、体系的に学ぶ講座です。
資格取得	● 本講座を修了し、所定の試験に合格した方に、「国際物流管理士」の資格が授与されます。
資格認定規程(抜粋)	● 出席に関する規程 講座期間中、14日以上出席すること。 ● 試験に関する規程 客観試験およびレポート試験(5回)をすべて受験し、それぞれの得点が70点以上(100点満点)であること。 レポート試験と客観試験の平均点(100点満点)から、欠席点を引いた得点が70点以上であること。 なお、欠席点は1日につき1点、半日につき0.5点とする。 ※資格認定規程の詳細は、講座の開講時に、事務局よりご説明します。
受講資格	● 国際物流関連業務に従事し、2年程度の経験を有する方。
対象	● 国際物流のプロフェッショナルを志向する方。 ● 国際物流に携わる中堅管理者、担当者。
講師	● 各専門分野を代表する学識経験者、実務家、専門コンサルタント など
会期・開催方法・定員	6ヵ月間(19日間) ● 第46期 2024年9月~2025年3月 オンライン(36名)
受講料(税込:1名につき)	①会員 440,000円 ②会員外 550,000円 ③有資格者優待(会員) 385,000円 ④有資格者優待(会員外) 495,000円

現地見学のイメージ(集合型研修の場合) 写真はイメージです



プログラム

【第1単元】グローバルロジスティクスのアウトラインを捉える(1.5日)

1. 国際物流とロジスティクス
 2. グループ討議
 3. 昨年度総代による講演
- ◆キックオフミーティング(交流会)

【第2単元】輸出入業務の流れと貿易実務に必要な知識を学ぶ(2.5日)

1. 国際マーケティングとインコタームズ、ウィーン売買条約
2. 輸出入における通関業務と保税手続き、通関システム
3. FTAとEPA、原産地規則、AEO制度
4. 貿易売買契約と各種決済方法、外国為替とリスクヘッジ、国際ファイナンス、FinTech(貿易取引のデジタル化)

【第3単元】国際物流の根幹を成す海上輸送を理解する(2日)

1. 国際海上貨物輸送概論
2. 海上個品運送契約/船荷証券/Sea Waybill/複合運送証券
3. 海上コンテナ輸送に関して
4. フォワーダーとNVOCCと国際複合輸送
5. 海上運送における危険物概論
6. 国際物流におけるコスト削減に向けた取り組み

【第4単元】航空輸送の仕組みとポイントを理解する(1日)

1. 航空産業概論
2. 航空貨物輸送概論、航空協定、航空運送約款と航空運送状、航空貨物運賃

【第5単元】グローバルサプライチェーンの可視化と最適化の手法を学ぶ(3日)

1. グローバルサプライチェーンにおけるKPIの算定と既存業務プロセスの見直し
2. サプライチェーン最適化のためのシステム構築
3. グローバルサプライチェーンの各種改善技法
4. 3PL概論
5. グループ討議

【オンライン見学】国際物流の最前線を、見学して感じる(1日)

【第6単元】国際物流のリスクを理解し、対処する方策を学ぶ(2日)

1. リスクマネジメント・BCP概論
2. 国際物流におけるリスクマネジメント事情
3. 国際物流におけるリスクマネジメントとロスプリベンション
4. 貿易貨物保険とクレームの実務

【第7単元】海外の最新物流環境を学ぶ(2日)

1. インドの最新物流事情
2. 欧州の最新物流事情
3. 米国の最新物流事情
4. ASEANの最新物流事情
5. 中国の最新物流事情

【第8単元】グローバル企業が直面した課題と解決方法を学ぶ(2日)

1. 海外におけるSCM・ロジスティクス改善事例
2. 海外駐在における駐在員の心得
3. ITによる国際物流の見える化
4. 海外現地における人材マネジメント方策
5. グローバルサプライチェーンの構築事例

【第9単元】あるべき姿に到達するための実践力を身につける(2日)

1. ケーススタディ「グローバルロジスティクス改革」

● レポート試験(5回・・・第2~6単元)

● 客観試験

物流現場改善士資格認定講座

物流現場改善をデータで議論、数値で管理し、改善を実践する 物流現場改善リーダー育成のための専門講座

概要	<ul style="list-style-type: none"> グループディスカッション、演習を多く取り入れ、理論・知識を実務で活用するための実践力を身に付けます。 実際の企業の物流現場をモデルにしたケーススタディに取り組みます。 講座の成果として受講者の担当職場の改善実行計画が完成します。
資格取得	<ul style="list-style-type: none"> 本講座を修了し、所定の試験に合格した方に、「物流現場改善士」の資格が授与されます。
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 製造業・流通業、物流業（運送事業者・倉庫業者等）の物流現場改善のリーダーとリーダー候補で物流に関する基本的な用語を理解している方。
期待される到達レベル	<ul style="list-style-type: none"> 物流業務における問題点を常に意識し、問題点を把握することができる。 把握された問題点を、各種の分析手法を用い分析し、課題を抽出することができる。 抽出された課題に優先順位をつけ、課題解決のための方策を立案することができる。 課題解決案を社内外の関係者に説明し、理解を得、実行することができる。 実行した課題解決の結果を評価できる。
合格基準	<ul style="list-style-type: none"> 資格の合否判定は能力開発委員会 物流現場改善士専門委員会が行い、以下の基準を満たした場合、合格と判定される。 講座の修了者であること。 以下3つのレポート試験の全てを遅延なく提出し、「改善実行計画レポート-2」の全ての採点項目の得点が6割以上であること。 <p>①「問題発見・改善企画レポート」 ②「改善実行計画レポート-1」 ③「改善実行計画レポート-2」</p>
講師	<ul style="list-style-type: none"> 各専門分野を代表する学識経験者、実務家、専門コンサルタント など
会期・開催方法・定員	<p>(10日間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第15期 2024年6月～2025年2月 集合(東京)+オンライン(60名)
受講料 (税込:1名につき)	<p>①会員 297,000円 ②会員外 407,000円</p>

プログラム

【第1単元】 物流現場改善概論

1. 物流現場改善概論

【第2単元】 現状把握力の強化

1. 問題発見の基礎
2. 問題発見のヒント

【第3単元】 改善企画力の強化

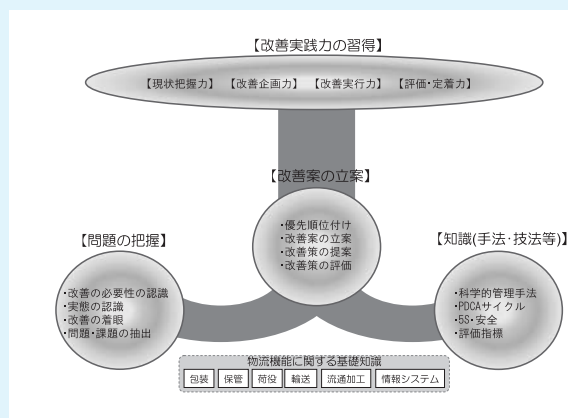
1. レポート作成のポイント
2. 物流コスト分析
3. 科学的管理手法の習得－QC
4. 科学的管理手法の習得－IE

【第4単元】 改善実行力・評価・定着力の強化

1. 振り返り演習－1
2. 改善実行の推進について
3. 物流現場改善の評価・定着・横展開
4. 物流評価指標・KPI
5. ケースの出題・説明

【第5単元】 物流現場改善立案：ケーススタディ

1. 振り返り演習－2
2. レポート指導
3. ケーススタディのグループディスカッション
4. グループごとの提案書発表
5. 講評とまとめ



ストラテジック SCM コース

いま問われるサプライチェーンの真価 戦略的な視点で学ぶ「最先端の SCM」

概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 戦略的な視点から、経営科学的なアプローチも含めた最新のSCMを学びます。 ● グループ演習で、日本のSCMの問題構造を、現状問題構造ツリー(CRT)により明らかにし、解決策を検討します。 ● 本コースは、2016年度より東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科キャリアアップMOTより、コースを引き継ぎ、日本ロジスティクスシステム協会が運営しています。
修了規程	<ul style="list-style-type: none"> ● 出席に関する要件（15日以上出席）を満たした者 ● 出席に関する要件（13.5日以上出席）を満たし、コーディネーターが受講評価を可と認めた者
対象	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業の経営企画を担当する経営幹部あるいはスタッフの方、サプライチェーンの計画・設計・管理・運営を担当する社会人の方
講師	<ul style="list-style-type: none"> ● 各専門分野を代表する学識経験者、実務家、専門コンサルタント など
会期・開催方法・定員	<p>(21日間)</p> <p>※20日：毎 週 19：00～21：00 1日：最終日 10：30～17：30</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第29期 2024年 4月～2024年9月 集合(東京)+オンライン(30名) ● 第30期 2024年10月～2025年3月 集合(東京)+オンライン(30名)
受講料 (税込：1名につき)	198,000円

プログラム

【SCMの概念と経営戦略】

1. オリエンテーション/SCMの全体像と授業科目
2. SCMと経営 その1
3. SCMと経営 その2
4. サプライチェーンの複雑性と企業間協働の効果：SCMゲームの体験を通して
5. SCM実現を阻む根底問題を探る
～CRTを用いたグループワーク演習～
6. 経営戦略とビジネス・ロジスティクスの新たな方向性について

【流通市場とSCM】

7. 消費財流通のチャネル戦略とSCM
8. マーケティングとSCM
9. ロジスティクスマネジメントとSCM部門の役割
10. サプライチェーン可視化とトレーサビリティ
11. デジタルプラットフォームの進展とバリューチェーンの革新

【サプライチェーンの実行プロセス】

12. SCM性能の見える化
～SCMスコアカードとSCMの課題～
13. スケジューリング、サプライチェーン、BOM
14. サプライチェーン経営戦略と組織能力
15. サプライチェーン計画マネジメントとS&OP
16. プロセスモデル (SCOR) による業務プロセス改革

【SCMにおける数理技術/ORの活用】

17. SCMにおける需要予測・在庫最適化と生産管理方針
18. SCMにおけるAI・ORの活用
～科学的手法を経営に生かす～
19. AI・ORを使った最適化モデルと企業戦略への活用

【総括】

20. 経営戦略とSCM、SCM改革のためのチェンジマネジメント

【グループ課題発表会・修了行事】



授業風景（集合型研修の場合）

セミナー

2024年度開催予定セミナー一覧

テーマ	セミナー名	
輸配送	輸配送効率化実践セミナー	
情報	物流DX推進のためのIT基礎セミナー	
在庫	在庫適正化実践セミナー	
物流コスト	たった一日でよく判る物流コスト基礎セミナー	
	物流コスト&KPI管理入門セミナー	
物流改善	物流現場改善の進め方	
	「問題解決の実践」セミナー	
	「問題発見」実践セミナー	
	「しってるをしてるに!!トヨタ式物流改善の極意」セミナー	
	物流センターの管理・レイアウト設計改善セミナー	
国際物流	新任担当者のための国際物流基礎セミナー	
物流営業	営業で勝つために効くセミナー	
	即実践！新任担当者のための物流営業セミナー	
	「物流提案営業の進め方」実践セミナー	
SCM	『超』入門！ SCMシリーズ	『超』入門！世界標準のSCMセミナー
		『超』入門！メーカーのSCMセミナー
		『超』入門！戦略的サプライチェーン設計セミナー
		『超』入門！組織の壁を突破するS&OPセミナー
	需要予測の基本	
	サプライチェーン構造改革セミナー	
	梱包・包装最適化による物流コスト削減実践セミナー	
	マーケティング視点によるサプライチェーンの考え方	
	サプライチェーン最適化のためのORモデルによるデータ活用セミナー	
	HRM	物流企業のための人事評価実践セミナー

	レベル		開催方法	2024年												2025年		
	基礎	実践・応用		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
		■	オンライン			●												
	■		オンライン					●										
		■	集合(東京)						●									
	■		オンライン					●										
	■		オンライン								●							
	■		集合(東京)			●												
	■		オンライン					●										
	■		オンライン										●					
		■	オンライン		●													
		■	オンライン						●									
	■		オンライン														●	
	■		オンライン				●											
	■		オンライン															
		■	オンライン									●						
		■	オンライン										●					
		■	オンライン			●												
		■	オンライン				●											
		■	集合(東京)														●	
		■	集合(東京)							●								
		■	オンライン														●	

輸配送効率化実践セミナー

輸配送

概要	<ul style="list-style-type: none">輸配送業務における生産性の向上とコスト削減を推進するための業務改善ステップや組織連携のアプローチなどについて事例を交えて解説します。
対象	<ul style="list-style-type: none">製造業・流通業および物流管理会社、物流事業者の輸配送・配車管理者の方
会期	<ul style="list-style-type: none">2024年6月
開催方法	<ul style="list-style-type: none">オンライン
定員	<ul style="list-style-type: none">50名
参加料(税込)	① 会員 (1名につき) 38,500円 ② 会員外 (1名につき) 55,000円

プログラム

1. 輸配送の基本
2. 輸配送のムダを把握する
3. 輸配送コストを見える化する
4. 輸配送コストを下げる
5. 効率のよい輸配送を目指す
6. 輸配送のコストダウン成功事例

物流 DX 推進のための IT 基礎セミナー

情報

概要	<ul style="list-style-type: none">WMS・TMSなどロジスティクスに関わる情報システムの基礎から、実際にシステムを導入する際のポイントや提案要求書(RFP)発行とベンダ選定手法について解説いたします。これからのITトレンドとして物流DXの意義や最新事例もご説明いたします。
対象	<ul style="list-style-type: none">物流情報システム部門の管理者、担当者の方
会期	<ul style="list-style-type: none">2024年8月 (3日間午後開催)
開催方法	<ul style="list-style-type: none">オンライン
定員	<ul style="list-style-type: none">30名
参加料(税込)	① 会員 (1名につき) 66,000円 ② 会員外 (1名につき) 88,000円

プログラム

1. はじめに
2. 情報システムの基礎知識
3. ロジスティクスの情報システム概略
4. 物流拠点におけるIT活用(WMS)
5. 輸配送におけるIT活用(TMS)
6. 物流QCDの見える化とKPI管理(LMS)
7. 情報システム導入を成功させるコツ
8. 提案要求書(RFP)発行とベンダ選定
9. これからのITトレンド
10. まとめ

在庫適正化実践セミナー

在庫

概要	<ul style="list-style-type: none">製造業や流通業等の荷主企業における在庫のあり方やその適正化に向けたポイントについて、講義と演習を交えて学びます。
対象	<ul style="list-style-type: none">製造業、流通業等の荷主企業におけるSCM、ロジスティクス、物流部門の係長、担当者の方物流子会社、物流事業者の方で、荷主企業の在庫管理に関心のある方
会期	<ul style="list-style-type: none">2024年9月
開催方法	<ul style="list-style-type: none">集合(東京)
定員	<ul style="list-style-type: none">25名
参加料(税込)	① 会員 (1名につき) 38,500円 ② 会員外 (1名につき) 55,000円

プログラム

1. 企業における在庫
 - ・在庫とは何か?
 - ・在庫の役割
2. 在庫適正化へのアプローチ
 - ・適正な在庫基準を設定する
 - ・基準を維持するための管理プロセス
3. グループ演習
 - ・在庫・出荷実績データ等に基づく問題点の整理と改善・改革の方向性を検討するグループ演習を実施します。

たった一日でよく判る物流コスト基礎セミナー

物流コスト

概要	● 1日で物流コスト構造から、見える化、物流KPIの設定、適切な物流コスト削減の着眼点までを判りやすく解説します。
対象	● 製造業、流通業の物流部門および物流企業の管理者、スタッフの方
会期	● 2024年8月
開催方法	● オンライン
定員	● 30名
参加料(税込)	① 会員 (1名につき) 38,500円 ② 会員外 (1名につき) 55,000円

プログラム

1. 物流コストの基礎知識
2. 物流コスト管理の実際
3. 物流コスト算定 (演習)
4. 物流コスト削減の着眼点
5. これからの物流コスト管理
6. まとめ、質疑応答

物流コスト& KPI 管理入門セミナー

物流コスト

概要	● 物流コストの全体像の掴み方、運行原価計算、作業原価計算の基礎を講義と演習を通じて学び、物流コストをKPIとして管理する方策を解説します。
対象	● 製造業・流通業の物流部門の管理者・スタッフの方 ● 物流管理会社・物流事業者の管理者・スタッフの方
会期	● 2024年11月
開催方法	● オンライン
定員	● 50名
参加料(税込)	① 会員 (1名につき) 27,500円 ② 会員外 (1名につき) 38,500円

プログラム

1. 物流コスト管理とは何か
2. トータル物流コスト管理
3. 運行原価計算入門
4. 作業原価計算入門
5. 物流コストのKPI活用

物流現場改善の進め方

物流改善

概要	● 物流現場における初歩的な管理項目や改善基礎知識、分析手法を学びます。
対象	● 新任の物流部門・物流センター管理の実務担当者の方
会期	● 2024年6月
開催方法	● 集合 (東京)
定員	● 30名
参加料(税込)	① 会員 (1名につき) 38,500円 ② 会員外 (1名につき) 55,000円

プログラム

1. 物流現場管理の基礎
2. 問題・課題を正しく捉える
3. 問題点を明らかにする分析手法 (演習)
4. 物流現場の改善手法
5. 物流品質の考え方
6. 物流業務改善の体系的な進め方

「問題解決の実践」セミナー

物流改善

概要	● 様々な「問題」に対して、的確な対策を立案し、継続的効果につながる問題解決の進め方を解説と演習を通して学びます。
対象	● 製造業・流通業や物流企業にて、物流・ロジスティクスの業務管理、現場管理、改善活動等に携わる方
会期	● 2024年8月（2日間）
開催方法	● オンライン
定員	● 15名
参加料 (税込)	① 会員（1名につき） 55,000円 ② 会員外（1名につき） 88,000円

プログラム

1. 科学的な仕事の進め方
2. 仕事における問題解決の重要性
3. 適切な対策立案と継続的効果につながる進め方
4. 科学的・論理的に問題を解決する8ステップ
・個人演習1～7の実施
5. まとめ：QC的思考方と問題解決ステップの関係

「問題発見」実践セミナー

物流改善

概要	● 物流現場改善の第一歩となる「気付き・問題点の把握」に焦点を当て、「問題発見の着眼点」「問題の抽出」について、事例と演習を交えながら解説します。
対象	● 製造業、物流企業（運送事業者・倉庫業者等）の物流現場改善のリーダーやリーダー候補の方
会期	● 2025年1月
開催方法	● オンライン
定員	● 30名
参加料 (税込)	① 会員（1名につき） 38,500円 ② 会員外（1名につき） 55,000円

プログラム

1. 物流現場とはどんな場所？
2. ロジスティクスの理解と物流現場の関係
3. 物流現場の現状把握
4. 問題発見能力とは何か？
5. 問題発見の着眼点
6. 実例による改善演習

「しってるをしてるに!!トヨタ式物流改善の極意」セミナー

物流改善

概要	● トヨタ式物流改善手法について解説します。
対象	● 製造業、流通業および物流管理会社、3PL、物流企業の管理者および改善推進リーダー担当の方
会期	● 2024年5月
開催方法	● オンライン
定員	● 30名
参加料 (税込)	① 会員（1名につき） 38,500円 ② 会員外（1名につき） 55,000円

プログラム

1. カイゼンとは
2. 物流とロジスティクス
3. TPS（TOYOTA Production System）
4. トヨタ改善の口ぐせ
5. 物流人材の育成
6. KPI（重要業績管理指標）

物流センターの管理・レイアウト設計改善セミナー

物流改善

概要	<ul style="list-style-type: none"> 作業効率、生産性、物流品質の高い物流センターの作り方、物流センター管理のツボ、業務改善のための実践的なノウハウを学びます。
対象	<ul style="list-style-type: none"> 製造業、流通業、物流業のロジスティクス、物流部門の企画担当者、拠点設計、拠点業務の改善、運営担当者の方
会期	<ul style="list-style-type: none"> 2024年9月
開催方法	<ul style="list-style-type: none"> オンライン
定員	<ul style="list-style-type: none"> 30名
参加料 (税込)	① 会員 (1名につき) 38,500円 ② 会員外 (1名につき) 55,000円

プログラム

- はじめに
- 適正な物流センター数の算出方法と立地選定の方法
- 物流センター規模の決定
- 物流センターレイアウト設計
- 物流センター業務管理のツボ

新任担当者のための国際物流基礎セミナー

国際物流

概要	<ul style="list-style-type: none"> 初めて国際物流に携わる方々を対象に、国際物流の基礎を体系的に学びます。
対象	<ul style="list-style-type: none"> 国際物流、貿易関連部門の新入社員、新任担当者の方 上記部門以外で国際物流の基礎知識を身につけたい方
会期	<ul style="list-style-type: none"> 2025年3月
開催方法	<ul style="list-style-type: none"> オンライン
定員	<ul style="list-style-type: none"> 30名
参加料 (税込)	① 会員 (1名につき) 38,500円 ② 会員外 (1名につき) 55,000円

プログラム

<1日目>

- 国際物流入門
 - 国際物流の基礎知識
 - 国際物流の機能
- 貿易実務の基礎
 - 貿易取引の概要
 - 取引交渉から契約の流れ
 - インコタームズ2020

営業で勝つために効くセミナー

物流営業

概要	<ul style="list-style-type: none"> 荷主企業の物流ニーズを的確に把握し、自社の物流サービスとその優位性を理解した上で荷主企業に効果的なアプローチを行うための方法を具体的な事例を交えながらわかりやすく解説いたします。
対象	<ul style="list-style-type: none"> 物流子会社、物流事業者の営業部門、企画部門の方
会期	<ul style="list-style-type: none"> 2024年7月
開催方法	<ul style="list-style-type: none"> オンライン
定員	<ul style="list-style-type: none"> 30名
参加料 (税込)	① 会員 (1名につき) 38,500円 ② 会員外 (1名につき) 55,000円
参加特典	<ul style="list-style-type: none"> 『すぐに使える提案書作成の基本フレーム』を進呈

プログラム

- 荷主の物流ニーズの現状
- 物流業界におけるマーケティング手法
- 営業で勝つために準備すべき事項
 - 営業戦略編
 - ツール編
 - ネットワーク編
- 勝つための提案営業の基本
 - 営業先の見つけ方 (ターゲットセグメント)
 - 提案アプローチと事前準備
 - 他社と違う提案書作成のポイント
 - プレゼンテーションの6箇条

即実践！ 新任担当者のための物流営業セミナー

物流営業

概要	● 物流営業の基本的な考え方から営業活動におけるコミュニケーションスキルについて、事例紹介やロールプレイングを交えながら、解説いたします。
対象	● 物流事業者、物流子会社、3PL事業者の営業部門に配属または配属予定の新入社員 ● 新任の営業担当者の方 ● 営業経験5年未満の方
会期	● 2024年5月
開催方法	● 集合（東京）
定員	● 18名
参加料 (税込)	① 会員（1名につき） 38,500円 ② 会員外（1名につき） 55,000円

プログラム

1. 物流営業の役割を理解する
2. 顧客（荷主企業）の物流ニーズを知る
3. 物流営業の基本を知る
 - 1) ヒヤリングー聞くべき内容は
 - 2) 情報提供ー事例や情報の入手方法
 - 3) 提案ー提案書の作り方
4. ロールプレイング（グループ演習）

「物流提案営業の進め方」実践セミナー

物流営業

概要	● 提案営業による新規顧客開拓の事例、提案営業に必要な手法、企画書の評価や内容の検証方法等について学びます。
対象	● 物流子会社、物流事業者の営業部門、企画部門の方
会期	● 2025年2月
開催方法	● 集合（東京）
定員	● 30名
参加料 (税込)	① 会員（1名につき） 38,500円 ② 会員外（1名につき） 55,000円

プログラム

1. 物流提案営業の基本
2. 提案型営業の進め方 ～ステップ別解説～
 - ステップ1：マーケティングフェーズ
 - ステップ2：提案フェーズ
(演習：ヒアリングシートの作成)
 - ステップ3：実行フェーズ
3. 提案書作成とプレゼンテーション
 - ① いい提案書の条件・提案書の種類
 - ② 実際の提案書による事例研究
 - ③ 提案書作成とプレゼンテーションのポイント
4. まとめ

『超』 入門！ 世界標準のSCMセミナー

SCM

概要	● 本セミナーは、グローバル標準の知識体系に沿った講義と演習を通じ、SCMを理解するための「観点」と「基礎知識」の習得を目指していただくものです。SCMの専門領域へと学びを深めるための「はじめの一步」としてご活用ください。
対象	● 製造業・流通業のSCM部門担当者の担当者および新任マネージャーなど
会期	● 2024年6月（2時間×3日間）
開催方法	● オンライン
定員	● 25名
参加料 (税込)	① 会員（1名につき） 44,000円 ② 会員外（1名につき） 55,000円

プログラム

1. 「SCMって何？」
2. 企業活動におけるSCMの要素①
 - ・ SCMにおける「調達」の役割について
 - ・ SCMにおける「生産」の役割について
 - ・ SCMにおける「流通」の役割について
 - ・ 自社を含むサプライチェーンを描いてみる
3. 企業活動におけるSCMの要素②
 - ・ SCMにおける「需要情報」と「供給活動」
 - ・ SCMにおける「在庫」の役割・ROICについて
 - ・ サプライチェーンの外部環境を整理する
 - ・ SCMの観点から自社の課題を再整理する

『超』 入門！メーカーのSCMセミナー

SCM

概要	● 本セミナーは、メーカーSCM担当者・新任マネージャー、その他メーカーSCMに関わる皆様を対象として、メーカーの仕事のなかでSCMが果たす役割や基礎知識習得と理解促進の機会を提供するセミナーです。メーカーのSCMや「財務」「需要予測」「生産管理」とのつながりについて学びます。
対象	● 製造業・流通業のSCM部門担当者の担当者および新任マネージャーなど
会期	● 2024年9月
開催方法	● オンライン
定員	● 25名
参加料 (税込)	① 会員 (1名につき) 44,000円 ② 会員外 (1名につき) 55,000円

プログラム

1. メーカーの仕事と世界標準のSCM
2. メーカーのSCMと財務
3. メーカーのSCMと需要マネジメント
4. 「独立需要」と生産計画
5. 「従属需要」と生産計画
6. メーカーのSCMと意思決定

『超』 入門！戦略的サプライチェーン設計セミナー

SCM

概要	● 本セミナーは、企業の戦略部門・企画部門に勤務される方を対象としてサプライチェーンの「設計」と「評価」の基礎を学んでいただくことを狙いとしています。
対象	● 製造業・流通業のSCM部門担当者の担当者および新任マネージャーなど
会期	● 2024年12月
開催方法	● オンライン
定員	● 25名
参加料 (税込)	① 会員 (1名につき) 44,000円 ② 会員外 (1名につき) 55,000円

プログラム

1. サプライチェーンの設計・評価「超」入門
 - 1.1 サプライチェーンの「設計」とはどのような活動なのか
 - 1.2 サプライチェーン設計のための手法
2. サプライチェーンを「記述」するための基礎知識
 - 2.1 標準表現によるサプライチェーン記述方式を学ぶ
 - 2.2 サプライチェーン参照枠組を用いた「構造解析」を学ぶ
3. サプライチェーンを「評価」するための基礎知識
 - 3.1 サプライチェーン参照枠組を用いた「性能評価」を学ぶ
 - 3.2 総合演習

『超』 入門！組織の壁を突破するS&OPセミナー

SCM

概要	● 本セミナーでは、企業で活躍するミドルマネジメント層がより効果的に事業戦略を実行するために、現場と経営の断絶を克服し、さらに販売と生産・調達の対立を克服するアプローチとして、S&OPを学びます。
対象	● SCM担当者・マネージャー
会期	● 2025年1月
開催方法	● オンライン
定員	● 30名
参加料 (税込)	① 会員 (1名につき) 38,500円 ② 会員外 (1名につき) 55,000円

プログラム

1. 世界標準のSCMにおけるS&OPの役割
2. S&OPの仕組みと実行ステップ
3. S&OPの効果を評価する

需要予測の基本

SCM

概要	商品の在庫切れや在庫余り抑制のカギを握る「需要予測」に特化したセミナー ビジネスの現場ではどのような取り組みが行われているのか、具体的なケースを例に考え、理論で補強することで、それぞれの業界で役立つ学びを得ていただきます。
対象	<ul style="list-style-type: none">● 新任SCM担当者（需要予測・在庫計画・生産計画立案・原材料調達など）● マーケター● 事業計画立案担当者● 需要予測も行うその他の業務担当者（営業担当者など）
会期	● 2024年6月
開催方法	● オンライン
定員	● 30名
参加料 (税込)	① 会員（1名につき） 38,500円 ② 会員外（1名につき） 55,000円

プログラム

1. グローバル標準の需要予測知識
2. 海外論文研究
3. S&OPのための需要予測
4. S&OP成熟度診断
5. 世界で使われる予測モデル
6. VUCA時代の新製品需要予測
7. データドリブンの予測精度分析
8. グループワーク「需要予測の本質的課題」

サプライチェーン構造改革セミナー

SCM

概要	<ul style="list-style-type: none">● 需要の多様化やグローバル化が進展する中、SCMの重要性は益々高まっています。本セミナーでは、SCMの基本的な考え方からSCM改革の進め方までを事例を交えた講義を通じて学びます。
対象	● SCM、物流労務、生産管理に携わる方
会期	● 2024年12月
開催方法	● オンライン
定員	● 40名
参加料 (税込)	① 会員（1名につき） 38,500円 ② 会員外（1名につき） 55,000円

プログラム

1. SCM基礎
 - ・ SCMとは、SCMの必要性
 - ・ SCM改革のポイント
2. 在庫管理
 - ・ 在庫とは、在庫の区分
 - ・ 在庫の役割と弊害
 - ・ 在庫適正化の進め方
3. SCM改革
 - ・ SCMの理論と戦略
 - ・ S&OP

梱包・包装最適化による物流コスト削減実践セミナー

SCM

概要	<ul style="list-style-type: none">● 「梱包・包装」の改善に目を向け、設計から見直しをしていただくため、物流と梱包・包装の関係からDFL推進のためのステップまで、講義と演習を踏まえて学んでいただきます。
対象	<ul style="list-style-type: none">● 製造業の商品設計、製造、物流担当者● 物流事業者の営業、改善担当者● 新しい改善のテーマがほしい方
会期	● 2024年7月
開催方法	● オンライン
定員	● 30名
参加料 (税込)	① 会員（1名につき） 38,500円 ② 会員外（1名につき） 55,000円

プログラム

1. 物流コスト削減課題と活動ポイント
2. デザイン・フォー・ロジスティクス
3. 演習と解説（貨物包装の分析と改善）
4. デザイン・フォー・ロジスティクス推進プロジェクトの進め方

マーケティング視点によるサプライチェーンの考え方

SCM

概要	<ul style="list-style-type: none"> 顧客目線に立ったSCM実践の手段としてマーケティングの視点を取り入れる際の考え方や、SCMにおける意思決定を行う上で必須となる「組織の壁の克服」について、講師の経験を交えた解説やグループ演習等を通して学びます。
対象	<ul style="list-style-type: none"> 顧客価値を起点としたサプライチェーン構築に関心のある方等
会期	<ul style="list-style-type: none"> 2025年2月
開催方法	<ul style="list-style-type: none"> 集合（東京）
定員	<ul style="list-style-type: none"> 30名
参加料 (税込)	① 会員（1名につき） 27,500円 ② 会員外（1名につき） 38,500円

プログラム

1. マーケティングの全体像
2. 「SCM視点」と「マーケティング視点」の比較と組み合わせ
3. 組織の壁の克服
4. グループ演習
 - ・ポジショニングを考える
 - ・意思決定に必要なデータの取捨選択
 - ・サプライチェーンを考慮した現地生産による新規市場参入

サプライチェーン最適化のためのORモデルによるデータ活用セミナー

SCM

概要	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーン最適化に用いられる分析手法であるオペレーションズ・リサーチ(OR)のモデルを紹介し、輸配送網の構築や拠点配置の決定などにおいてデータを管理・活用する際に考慮すべき点について、講師の経験や企業事例を交えて解説します。
対象	<ul style="list-style-type: none"> ロジスティクス・SCMに関する計画立案や意思決定に携わる方等
会期	<ul style="list-style-type: none"> 2024年9月
開催方法	<ul style="list-style-type: none"> 東京（集合）
定員	<ul style="list-style-type: none"> 30名
参加料 (税込)	① 会員（1名につき） 30,800円 ② 会員外（1名につき） 41,800円

プログラム

1. SCMとORの概略
2. SCMにおけるORモデルの実例・効果
3. 物流ネットワークの計画立案に必要なデータの収集と編集
 - ・計画立案に必要なデータ
 - ・データの収集・編集の手法
4. Excelによる分析演習
 - ・物流拠点配置の検討
 - ・クロスドック効果の分析
5. 総括
 - ・実務への実装における注意点

物流企業のための人事評価実践セミナー

HRM

概要	<ul style="list-style-type: none"> 評価制度の基礎知識や目的、人事評価項目の設定等、物流企業における人事評価の進め方について演習を交え、わかりやすく解説いたします。
対象	<ul style="list-style-type: none"> 物流企業の人事・総務担当、役員、管理者等
会期	<ul style="list-style-type: none"> 2025年2月
開催方法	<ul style="list-style-type: none"> オンライン
定員	<ul style="list-style-type: none"> 30名
参加料 (税込)	① 会員（1名につき） 27,500円 ② 会員外（1名につき） 38,500円

プログラム

1. イントロダクション
2. 人事評価制度の基礎知識
3. 物流企業の課題
4. 物流業界で求められるスキルの把握
5. 人事評価の落とし穴
6. 「人材育成につながる人事評価」のあるべき姿
 ≪個人演習≫人事評価項目を作ってみましょう！
7. 質疑応答とまとめ

物流教育DVD

物流教育 DVD【正しい荷扱い作業とは】



- プロローグ
 - 手扱い（ハンドリング）
 - フォークリフト
 - 正しい荷扱いを助ける表示（ケアマーク）
 - 入庫・保管・出庫作業
 - エピローグ
- ◆ 日本語版／英語版ナレーション付
 - ◆ 収録時間 約25分
 - ◆ 価格（税込・送料別）
- 1本 11,000円

物流教育 DVD【正しい現品管理とは】



- プロローグ
 - 現品管理が悪いと
 - 現品管理のまずさの要因
 - 現品（物）の扱いの改善
 - ミスのない現品取り扱いのアイデア
- 事務処理の改善
 - 例外処理のルール化
 - 現品棚卸の正確性向上
 - 教育訓練と評価
 - エピローグ
- ◆ 日本語版／英語版ナレーション付
 - ◆ 収録時間 約25分
 - ◆ 価格（税込・送料別）
- 1本 11,000円

DVDはJILSホームページからお申し込みいただけます。

HOME

事業案内

教育研修

物流教育DVD

- 英語ナレーションもついていますので、海外現地法人での人材教育などにもご活用いただけます。

※リージョンフリーですので、DVDプレーヤの地域設定に関わらず利用できます。
 ※DVDをテレビに出力する場合には、NTSC方式（日・米等）のテレビをご利用ください。
 なお、パソコンで出力する場合には信号方式による影響はありません。

【割引セット販売】

セットでお買い求めいただくと、割引価格になります（割引は同時にFAX又はWEBでお申込みの場合のみに適用となります）。

A+Bセット

16,500円
（税込・送料別）

社内教育

JILSでは公開制の各種講座やセミナーを開催するとともに、各企業オリジナルのオーダーメイドの社内教育を実施しております。

<社内教育のメリット>

- 完全オーダーメイドの教育プログラム・教材をご提供いたしますので、貴社の教育ニーズ・レベルに合わせた内容となります。
- 日数、開催日、会場など、貴社のご都合に合わせた調整が可能です。*オンラインでの開催も可能です。
- 貴社に在籍する資格取得者を活用した、各種講座と連携した中・長期的な人材育成についても、ご相談ください。

<社内教育の流れ>

1.お問い合わせ・ご相談

貴社の人材育成に関する悩み事、人材育成ニーズ等について、お聞かせください。

2.教育プログラムの提示

貴社のニーズに応じた教育プログラムをご提示いたします。
 ※貴社の関係者をご納得いただくまで、内容の調整をいたします。

3.テキストの作成

貴社向け教育プログラムに対応したテキストを作成いたします。

4.教育プログラムの実施

専門講師による講義を実施いたします。

5.フォローアップの実施

実施プログラムの評価、次回への提案等をいたします。

<社内教育メニュー>

以下に示すのは一例ですので、詳細はお問い合わせください。

分類	コース名 (例)
階層別教育コース	上級管理養成・監督者レベルアップコース／評価者（1次・2次等）研修／物流企画管理者養成コース／新入社員基礎コース 等
テーマ別教育コース (1) 主に荷主系企業対象	SCM・物流管理基礎／需要予測基礎／物流コスト管理強化／3PL管理・連携力強化／グローバルビット管理／DX推進力養成基礎 等
テーマ別教育コース (2) 主に物流・サービス系企業対象	SCM・物流管理基礎／提案営業（基礎・実践）／荷主業種別事業戦略／物流センター長育成／OJTの評価と再構築

コンサルティング

- SCM、物流に精通したコンサルタントとの協業により、SCM、物流に関する戦略立案・デジタル化、BCM・BCP策定、物流企業選定や3PL・輸配送・倉庫等の物流企業との関係再構築など、マネジメント力と収益力、リスク管理能力を向上し、貴社の競争力強化のための支援をいたします。
戦略的人財育成に向けた組織、人事・総務部門の再構築（対象：物流業、物流子会社）

手引書・診断ツール

JILS ホームページより各種支援ツールをご活用ください。

HOME

→ お役立ち情報



サプライチェーンマネジメント推進に向けた課題2022



物流現場改善推進のための手引書

※ 「英語版」「ベトナム語版」「タイ語版」も JILS ホームページに掲載しております。



キャリアアップ診断・チェックリスト

- ・ 物流現場改善リーダーキャリアアップ診断
- ・ 問題発見チェックリスト
- ・ 現場活性サイクルチェックリスト

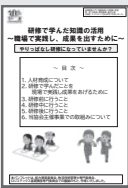


物流現場改善事例集



「SDGs × ロジスティクス」入門ガイド

～ ロジスティクスから読み解く SDGs への誘い ～



研修で学んだ知識の活用

～ 職場で実践し、成果を出すために～



ロジスティクス KPI 活用の手引き

講演会・登録制研究会

* ロジスティクス全国大会、ロジスティクス関西大会、中部ロジスティクス講演会、九州ロジスティクス講演会は、有資格者優待の対象です。

ロジスティクス全国大会 2024

開催時期	● 2024年10月 (予定、変更となる可能性有り)
開催場所	● 東京 (予定)
参加料 (税込、1日あたり) (予定、変更となる可能性有り)	● ①24,200円 (会員) 1名あたり ②35,200円 (会員外) 1名あたり ③16,500円 (有資格者優待) 1名あたり

今日のロジスティクスを取り巻く環境変化に対応し、持続可能な発展のために何をすべきか、優れた先進事例の発表等を通じて課題の解決に向けた方向性の共有を図ります。JILSの年次大会として、活発な交流が行われます。

ロジスティクス関西大会 2025

開催時期	● 2025年2月 (2日間)
開催場所	● 大阪 (オンライン併用予定)
参加料 (税込、1日あたり) (予定、変更となる可能性有り)	● ①22,000円 (会員) 1名あたり ②30,800円 (会員外) 1名あたり ③16,500円 (有資格者優待) 1名あたり

社会情勢が大きく変動するなか、経営戦略におけるロジスティクス高度化の重要性を啓発し、最新の革新動向についての情報を提供するとともに、社会システムとしてのロジスティクスのあり方を発信します。

中部ロジスティクス講演会 2024

開催時期	● 2024年10月
開催場所	● 名古屋 (オンライン併用予定)
参加料 (税込)	● ① 8,800円 (会員) 1名あたり ②17,600円 (会員外) 1名あたり ③ 5,500円 (有資格者優待) 1名あたり

中部地域のロジスティクス関係者が一堂に集い、講演や懇親会を通じて、ロジスティクスの視点からの経営戦略や最新の革新動向に関する活発な情報交流を行います。

九州ロジスティクス講演会 2024

開催時期	● 2024年10月
開催場所	● 福岡 (オンライン併用予定)
参加料 (税込)	● ① 8,800円 (会員) 1名あたり ②17,600円 (会員外) 1名あたり ③ 5,500円 (有資格者優待) 1名あたり

九州・山口地域のSCM・ロジスティクス関係者が一堂に集い、ロジスティクスの視点から経営戦略や最新の動向に関する活発な情報交換を行います。

テーマ別研究会

開催時期	● 2024年5月～2025年3月
開催場所	● 東京、大阪、名古屋、オンライン
参加料 (税込)	● ①無料～16,500円 (会員) 1回あたり ②無料～33,000円 (会員外) 1回あたり * 会合によって異なりますので、詳細は各会合の案内にてご確認ください。

最新の行政動向、物流コスト調査等の研究成果や優れた企業事例等を紹介します。ロジスティクス・SCMの動向を把握し、課題解決のヒントを見つけ出します。

ロジスティクス研究会 (登録制)

開催時期	● 2024年4月～2025年3月 (全11回)
開催場所	● 東京 (オンライン併用予定)
参加料 (税込)	● ① 121,000円 (会員) 1名あたり ② 264,000円 (会員外) 1名あたり

SCM&物流に関わる様々な切り口(テーマ)から、製造業、流通業、物流子会社、3PL/物流業、サービス業等の研究会メンバーが自身の取組(事例)をベースに、問題・課題を提示し、メンバー同士が「三現主義」に基づくディスカッションを通じて、解決のヒントを見出す機会を提供します。

食品ロジスティクス研究会（登録制）

開催時期	● 2024年5月～2025年3月（全10回）
開催場所	● 東京（オンライン併用予定）
参加料 （税込）	● ① 110,000円（会員） 1名あたり ② 252,000円（会員外） 1名あたり

加工食品メーカーのロジスティクス責任者による情報交流を目的とし、メンバー相互の事例発表、物流センター見学などを行います。

国際物流強靱化推進研究会（登録制）

開催時期	● 2024年6月～2025年3月（全10回）
開催場所	● 東京（オンライン併用予定）
参加料 （税込）	● ① 製造業 ・121,000円（会員） 1名あたり ・253,000円（会員外） 1名あたり ② ソリューション企業（コンサルティング、システムベンダー等） ・242,000円（会員） 1名あたり ・374,000円（会員外） 1名あたり

荷主企業として事業の持続性と競争力を高めるために、国際物流の強靱化に向けて、関係者間で取組み等の共有しつつ、企業の枠組みを超えた人的ネットワークを構築していただきます。

需要予測研究会（登録制）

開催時期	● 2025年1月～2025年3月（全3回）
開催場所	● 東京（オンライン併用予定）
参加料 （税込）	● ① 49,500円（会員） 1名あたり ② 99,000円（会員外） 1名あたり

本研究会では、S&OPを効果的に推進するため、起点となる需要予測の精度を向上させる「6つの軸」*をフレームワークに、参加企業各社の現状を把握したうえで、先進的な事例発表や直近の課題の共有および示唆の提供、人的ネットワークの形成を支援いたします。

*1) 予測データ整備 2) 予測モデル 3) 予測システム
4) 予測マネジメント 5) 予測チーム 6) 予測スキル

物流企業のHRM推進研究会（登録制）

開催時期	● 2024年6月～2025年3月（全9回）
開催場所	● 東京（オンライン併用予定）
参加料 （税込）	● ① 110,000円（会員） 1名あたり ② 220,000円（会員外） 1名あたり

物流事業者、物流子会社の総務・人事担当者による登録制の研究会です。人材を経営資源と捉え、戦略的に獲得（採用）、開発、活用し、経営戦略の実現と企業価値の向上に資するHRMの推進を目的とし、メンバー相互の事例研究、課題共有、情報交換を通じてロジスティクス・物流分野の課題解決、人的ネットワークの形成を支援します。

物流子会社懇話会（登録制）

開催時期	● 2024年4月～2025年3月（全11回）
開催場所	● 東京（オンライン併用予定）
参加料 （税込）	● ① 264,000円（会員） 1社(2名登録可) ② 407,000円（会員外） 1社(2名登録可)

物流子会社、物流管理会社のトップマネジメントの方々が集い、自社、業界の経営全般に関する様々な問題や課題をとりあげ、その対策や解決方法についてメンバー相互の意見交換と積極的な情報交流、現地視察や外部講師の招聘等を行い、物流子会社、物流管理会社のあるべき方向を探っていきます。

中部ロジスティクス研究会（登録制）

開催時期	● 2024年7月～2025年3月（全8会合）
開催場所	● 名古屋（オンライン併用予定）
参加料 （税込）	● ① 74,800円（会員） 1名あたり ② 140,800円（会員外） 1名あたり

中部地域におけるロジスティクス・物流の課題解決に取り組みされている皆さんにお集まりいただき、解決に向けた取組みを共有しつつ、業種・業態、役職等、企業の枠組みを超えた人的ネットワークを構築していただきます。

関西ロジスティクス研究会（登録制）

開催時期	● 2024年6月～2025年3月（全9回）
開催場所	● 大阪（オンライン併用予定）
参加料 （税込）	● ① 77,000円（会員） 1名あたり ② 143,000円（会員外） 1名あたり

最新ロジスティクス事情の収集や潮流、最新情報等の収集、現場見学、他業界・他企業との交流を目的とし、活発な討議により情報の共有化を促進します。

九州ロジスティクス活性化研究会（登録制）

開催時期	● 2024年6月～2025年3月（全7回）
開催場所	● 福岡（オンライン併用予定）
参加料 （税込）	● ① 66,000円（会員） 1名あたり ② 110,000円（会員外） 1名あたり

九州・山口地域の企業による、事例交流や専門家による最新情報の解説などを通して、人脈形成と相互啓発を促進し、参加メンバーの課題解決を支援します。

物流改善事例大会・発表会

*全日本物流改善事例大会、関西物流改善事例発表会、九州物流改善事例発表会は、有資格者優待の対象です。

全日本物流改善事例大会 2024

開催時期	● 2024年5月14日(火)・15日(水)
開催場所	● 東京
参加料 (税込)	● ①37,400円 (会員) ● ②61,600円 (会員外) ● ③27,500円 (有資格者優待)

物流の現場において改善の成果をあげている優れた取り組みをご発表いただき、実務担当者が各々の現場の課題解決の手がかりやノウハウを共有し合うことで、視野を広げ、今後の物流改善活動の推進に役立つことをねらいとしています。

関西物流改善事例発表会 2024

開催時期	● 2024年10月 (1日)
開催場所	● 大阪 (オンライン併用予定)
参加料 (税込)	● ①16,500円 (会員) ● ②25,300円 (会員外) ● ③11,000円 (有資格者優待)

主に関西地域の物流現場における改善事例をご発表いただき、その手法やノウハウを共有することで、さらなる物流合理化活動の推進に役立つことをねらいとしています。

中部物流改善事例発表会 2025

開催時期	● 2025年2月 (1日)
開催場所	● 名古屋 (オンライン併用予定)
参加料 (税込)	● ① 8,800円 (会員) ● ②13,200円 (会員外) ● ③ 6,600円 (有資格者優待)

主に中部地域の物流現場における改善事例をご発表いただき、その手法やノウハウを共有することで、さらなる物流合理化活動の推進に役立つことをねらいとしています。

九州物流改善事例発表会 2024

開催時期	● 2024年11月
開催場所	● 福岡 (オンライン併用予定)
参加料 (税込)	● ① 7,700円 (会員) ● ②11,000円 (会員外) ● ③ 5,500円 (有資格者優待)

主に九州・山口地域の物流現場における改善事例をご発表いただき、その手法やノウハウを共有することで、さらなる物流合理化活動の推進に役立つことをねらいとしています。

物流改善賞*

2023年度最優秀物流改善賞

「海外向けボルト梱包作業の改善～苦渋作業を減らすぞ大作戦～」

コマツ物流株式会社

「DFL思考 × 包装デザインアップデートによる顧客価値共創～工業用電子管におけるコスト低減、作業性向上、サステナビリティを追求～」

SBS東芝ロジスティクス株式会社

「物流作業の標準時間算出ツール開発による作業要員数の適正化」

本田技研工業株式会社

全日本物流改善事例大会にて発表された改善事例の中から、特に優れた内容と成果が認められた改善事例に対して「最優秀物流改善賞」、「優秀物流改善賞」を贈り表彰しています。

※2022年大会より、「物流合理化賞」は「最優秀物流改善賞」に、「物流合理化努力賞」は「優秀物流改善賞」に変更になりました。

現場見学

* 物流施設の見学を通して、最新の物流技術、物流現場の運営方法等を研究します。

* 2024年度は、物流施設の見学受け入れ状況等に応じて、企画・実施します。JILS ホームページ等にてご案内します。

現場研究会

開催時期	● 2024年6月～2025年3月
開催場所	● 東京、大阪、名古屋、福岡
参加料 (税込)	● ① 5,500円～16,500円(会員) 1回あたり ② 11,000円～33,000円(会員外) 1回あたり * 会合によって異なりますので、詳細は各会合の案内にてご確認ください。

先端設備・技術や巧みな運用で効率を上げている物流施設を見学するとともに、訪問先担当者との情報交流をはかります。

II JILS が提供するプログラム・ツール 3. 調査結果から学ぶ

JILSは、多元化するロジスティクスの諸問題について、調査分析・研究開発を行うとともに、経営支援活動やデータベースの構築をとおして、的確な情報発信を行い、あわせて、時代をリードする提言の実施や問題解決のグランドデザインを提供すること等を目標にしています。

【主要調査】

物流コスト調査

物流コストのデータ、算定方法、コスト適正化策実施状況

物流システム機器生産出荷統計

物流システム機器（マテハン機器）の出荷金額、出荷数量等の統計

ロジスティクスKPI調査

ロジスティクスの標準的な評価指標体系、ベンチマーク

ビジネス・キャリア検定試験「ロジスティクス」分野 (JAVADA)

<https://www.javada.or.jp/jigyou/gino/business/logi.html> (「ビジキャリ」で検索)

【ビジネス・キャリア検定試験とは?】

- 中央職業能力開発協会 (JAVADA) が、厚生労働省が定めた職業能力評価基準に準拠した「職務を遂行する上で必要となる専門知識の習得と実務能力の評価を行うこと」を目的として実施している試験です。「人事・人材開発・労務管理」、「経理・財務管理」、「営業・マーケティング」、「生産管理」、「企業法務・総務」、「ロジスティクス」、「経営情報システム」、「経営戦略」の8分野について、1級からBASIC級まで設定されています。※一部未実施の分野があります。
- 「ロジスティクスについては、「1級ロジスティクス」、「2・3級ロジスティクス管理」、「2・3級ロジスティクス・オペレーション」「ロジスティクスBASIC級」が実施されており、「公的資格試験」という特徴と、多くの社員に共通的な専門知識を習得させることができることから、多くの業種業態の経営者層から物流・ロジスティクスに注目が集まる中、受験者が毎年増加しています。

【試験体系】

	ビジネス・キャリア検定試験 (ロジスティクス分野)	JILS資格認定講座・コース		
役員・経営幹部・ トップマネジメント		資格認定講座		講座・コース
部門長・ディレクター	1級ロジスティクス	ロジスティクス 経営士 資格認定講座		ストラテジック SCMコース
課長・マネージャー	2級 ロジスティクス 管理	2級 ロジスティクス・ オペレーション	物流技術 管理士 資格認定講座	物流現場 改善士 資格認定講座
係長・リーダー			国際物流 管理士 資格認定講座	
スタッフ	3級 ロジスティクス 管理	3級 ロジスティクス・ オペレーション	物流技術 管理士補 資格認定コース	ロジスティクス 基礎講座
学生等	ロジスティクスBASIC級			

ロジスティクス管理 の試験範囲 (概要) 「物流の概念と物流管理」 「在庫管理」 「物流システム管理」 「物流コスト管理」 「物流情報システム」	ロジスティクス・オペレーション の試験範囲 (概要) 「包装・荷役・MH・保管」 「輸配送システム」 「国際輸送」 「物流センター計画」 「物流センターの管理と運営」
--	---

【試験概要】

※日程等、詳細は中央職業能力開発協会にご確認ください。

【ビジネス・キャリア検定試験の活用法 (例)】

- 1) 自己啓発として、担当職務に必要な専門知識の向上とスキル・アップに活用
- 2) 教育研修として、社内で使用される専門知識の共通化と知識レベルの底上げに活用
- 3) 客観的な能力評価基準として、試験結果に基づく従業員の昇進・昇格要件に活用
- 4) 標準テキストをJILSの資格認定講座の予習用テキストとして活用
 - 出題範囲に基づく「標準テキスト」が発刊されています。各章ごとのねらい、各節ごとの学習のポイント、学習内容の全体像や要点がわかりやすく解説されています。JILSの資格認定講座の受講前の予習用のテキストとしてお薦めします。
- 5) SCMの実現に向けて
 - 荷主企業の物流・ロジスティクス部門がSCM改革を推進するためには、自社内の他部門(経営企画、調達、生産、営業、マーケティング、販売等)の与件、制約条件を理解しながら組織全体を鳥瞰し、全体最適の視点で戦略的なSCMプランを描き、他部門に対して提案し、交渉し、連携できる体制を構築することが求められます。そのため、「経営戦略」「生産管理」「経営情報システム」「営業・マーケティング」等の「ロジスティクス」分野以外の専門知識を習得していることが成功のポイントになります。同時に、他部門が「ロジスティクス」に関する基礎的な専門知識を習得していることも必要です。それぞれの分野の基礎的な専門知識の習得を目指す際に検定試験をご活用ください。

【専門知識を習得したら、応用力を身につけよう!】

- 中央職業能力開発協会が実施するビジネスキャリア検定「ロジスティクス管理」または「ロジスティクス・オペレーション」の2級もしくは3級の合格者かつ、企業等での実務経験を有する方が、実務での応用力を身につけるために、JILSの物流技術管理士補資格認定コース(旧 物流技術管理士補スクーリング)を受講できるようになりました。詳しくは、「[物流技術管理士補資格認定コース](#)」をご覧ください。

通信研修（産業能率大学）

学校法人産業能率大学では、物流に関する通信研修を実施しています。詳細は産業能率大学ホームページをご覧ください。

コース名	「物流の仕事がわかる」	
対象者	初めて物流業務に携わる方、物流の基本を再確認・強化したい中堅クラスの方、物流の知識を必要とする他業界・他部門の方	
特色	「効率と顧客満足」をキーワードに、その要点を事例や図解を交えて分かりやすく解説します。	
ねらい	物流業務の全体像を理解し、必須の実務知識を習得 ■物流の概念、基本的な役割・機能などの基礎知識を理解する。 ■全体最適化を追求する物流管理の主要課題を理解する。 ■物流の改善、高度化のための考え方、推進の着眼点を理解する。	
カリキュラム	1. 物流とロジスティクス 【第1部】物流とロジスティクスの概念 1) 物流とは 2) ロジスティクスとは 3) サプライチェーン・マネジメントとは 4) サードパーティ・ロジスティクスとは 【第2部】物流の高度化 5) 標準化と情報化 6) 企業連携と共同化 7) 物流行政の動向と環境対策	2. 物流管理 【第1部】物流管理の基礎知識 1) 物流管理と組織 2) 物流と顧客満足 3) 在庫管理 4) 物流品質管理 【第2部】物流コスト管理の基礎知識 5) 物流コスト管理の考え方 6) 物流ABCの基本
受講期間	2か月	

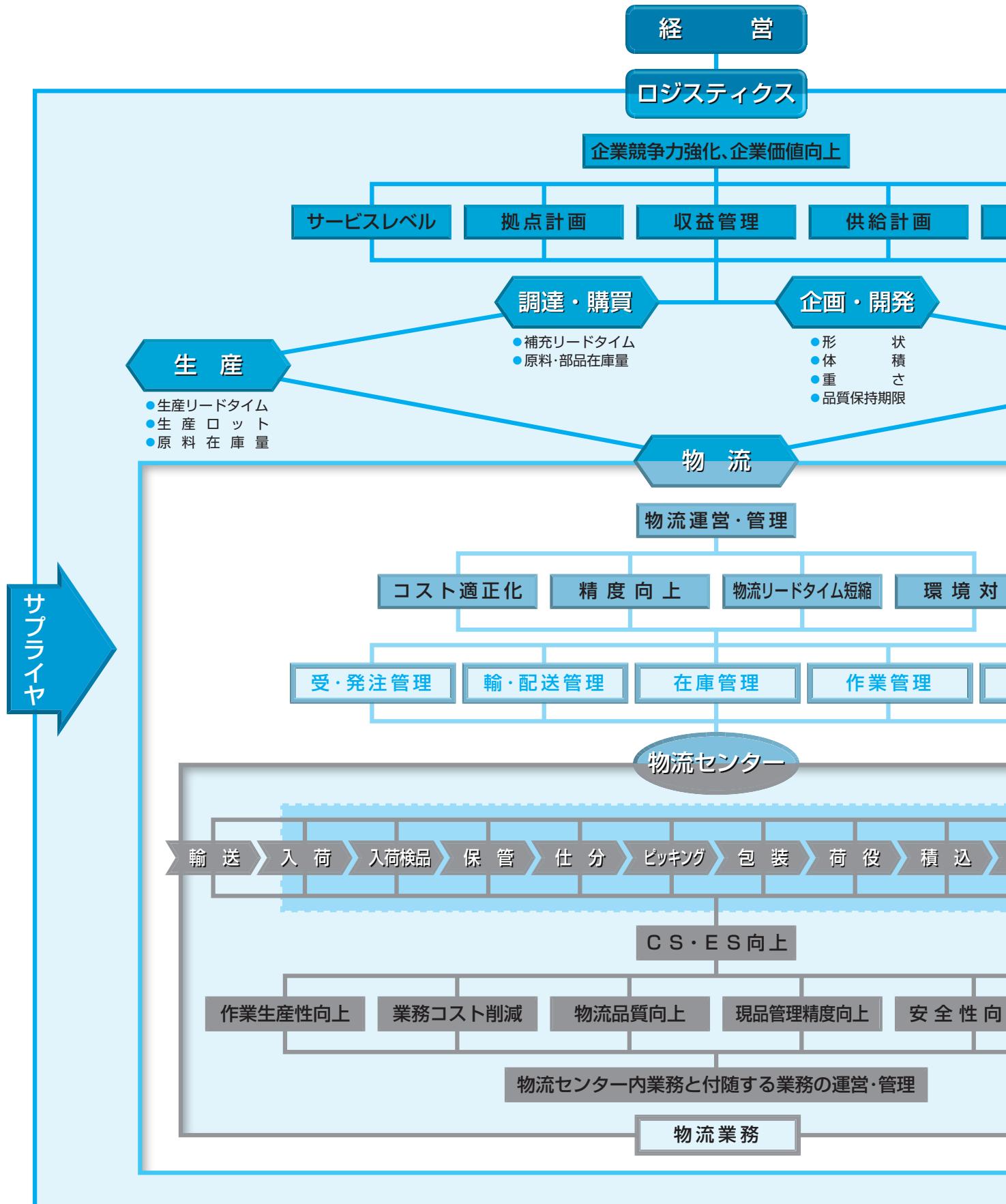
コース名	「物流技術の基本と改善」	
対象者	物流管理部門の担当者、物流現場の中堅～管理者、監督者、その他業界・他部門の管理者、監督者	
特色	「包装」「輸・配送」「荷役・保管」といった現場の実務に即した、基本的な物流技術の知識と併せて、物流とITとの関わりについても学習します。	
ねらい	■物流システムを構成する主要な要素について、基礎的な知識を習得し、改善のポイントを学ぶ。 ■物流情報システムの基本と、構築上の留意点を業務別に詳しく学ぶ。 ■全体最適の視点から、業務の根本的な仕組みの改善によって、効率化とコスト低減を実現する手法を学ぶ。	
カリキュラム	1. 物流の基本機能 1) 包装・包装の目的と開発・包装の改善と適正化 2) 輸・配送・各種輸送手段の特性・輸・配送の合理化に向けて 3) 荷役と保管 ・荷役と保管の基本概念 ・荷役の機械化と保管設備 ほか	2. 情報システムと物流の改善 【第1部】情報システム 1) 情報システムの基礎 2) 物流とIT 3) 物流情報システムの設計 4) 業務別物流情報システム 【第2部】物流改善の基礎 5) 物流改善のねらい 6) 課題発見の手段 7) 課題分析の手法 8) 物流改善の手法
受講期間	2か月	

上記2コースを3年以内に修了された方は日本ロジスティクスシステム協会が開催する「物流技術管理士補資格認定コース」を受講でき、修了後は物流技術管理士補の資格が認定されます。「物流技術管理士補資格認定コース」のプログラムは20ページをご覧ください。

ロジスティクス・物流・物流業務の領域区分

「ロジスティクス」「物流」「物流業務」の3領域に区分して、「ロジスティクス」を構成する1つの業務を「物流」とし、「物流」のなかで物流センター内業務と付随する業務を「物流業務」としています。

「物流現場改善推進のための手引書（改訂版）」では「物流業務」の改善を「物流現場改善」と位置づけています。





【領域の区分】

ロジスティクス	
対象範囲	企画・開発、生産、物流、営業、販売を統合した範囲が対象
対象業務	企画・開発、調達・購買、生産、物流、営業・販売
関係部門	部門横断（パートナー企業を含む）
役割	サービスレベル、拠点計画、収益管理、供給計画、在庫計画 など

物 流	
対象範囲	複数の物流業務および工程を統合した範囲が対象
対象業務	受・発注管理、輸・配送管理、在庫管理、作業管理、包装管理
関係部門	物流部門
役割	コスト適正化、精度向上、物流リードタイム短縮、環境対応 など

物 流 業 務	
対象範囲	ひとつの作業所（現場）で完結する、小集団が対象
対象業務	輸送、入荷、検品、保管、仕分、ピッキング、包装、荷役、積付、出荷、配送
関係部門	物流センター
役割	作業生産性向上、業務コスト削減、物流品質向上、現品管理精度向上、安全性向上、環境負荷軽減 など

企業に求められる人的資本の情報開示について

人的資本の情報開示が求められる背景としては、主に以下の3点が考えられます。

1. 人的資本の価値向上
2. ステークホルダーの人的資本への関心度アップ
3. サステナビリティ経営の重要性の高まり

ここでは、人的資本の情報開示が求められる根拠、情報開示に関する行政機関等の指針、ガイドライン等についてご紹介いたします。

■金融庁

2022年6月に公表された金融審議会ディスクロージャーワーキング・グループ報告において、「サステナビリティに関する企業の取組みの開示」、「コーポレートガバナンスに関する開示」などに関して、制度整備を行うべきとの提言がなされました。この提言を踏まえ、今般、有価証券報告書及び有価証券届出書の記載事項について、改正案が公表され、2023年1月31日「企業内容等の開示に関する内閣府令等の一部を改正する内閣府令」が公布・施行されました。また、併せて「企業内容等の開示に関する留意事項について（企業内容等開示ガイドライン）」の改正、「記述情報の開示に関する原則—サステナビリティ情報の開示について—（サステナビリティ情報開示原則）」も公表・適用されました。

人的資本については、サステナビリティに関する考え方及び取組の記載欄において、人材の多様性の確保を含む人材の育成に関する方針、社内環境整備に関する方針（例えば、人材の採用・維持、従業員の安全・健康に関する方針等）について、指標及び目標、上記の戦略で記載した方針に関する指標の内容、当該指標を用いた目標、実績を記載することが求められています。

- ◇ 「企業内容等の開示に関する内閣府令」等の改正案に対するパブリックコメントの結果等について

<https://www.fsa.go.jp/news/r4/sonota/20230131/20230131.html>

■東京証券取引所

東京証券取引所は、コーポレートガバナンス・コードの改訂に係る有価証券上場規程の一部改正を行い、2021年6月11日から施行しました。

今回の改正は、金融庁及び東京証券取引所が事務局をつとめる「スチュワードシップ・コード及びコーポレートガバナンス・コードのフォローアップ会議」からの提言を踏まえ、当該提言に沿って改正を行うものです。

ここでは、企業の中核人材における多様性の確保として、

- ・管理職における多様性の確保（女性・外国人・中途採用者の登用）についての考え方と測定可能な自主目標の設定
- ・多様性の確保に向けた人材育成方針
- ・社内環境整備方針

をその実施状況とあわせて公表と記載されています。

- ◇ 改訂コーポレートガバナンス・コードの公表

<https://www.jpx.co.jp/news/1020/20210611-01.html>

■ 「人的資本可視化指針」

競争優位の源泉や持続的な企業価値向上の推進力は「無形資産」になってきており、人的資本への投資はその中核であり、社会のサステナビリティと企業の成長・収益力の両立を図る上で重要な要素です。そのため、経営者、投資家、そして従業員をはじめとするステークホルダー間の相互理解を深めるため、「人的資本の可視化」が不可欠となってきました。

経営層・中核人材に関する方針、人材育成方針、人的資本に関する社内環境整備方針など人的資本の情報開示のガイドラインとなる「人的資本可視化指針」が2022年8月30日に内閣官房より、公表されました。

◇内閣官房・非財務情報可視化研究会

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/wgkaisai/jinteki/sisin.pdf

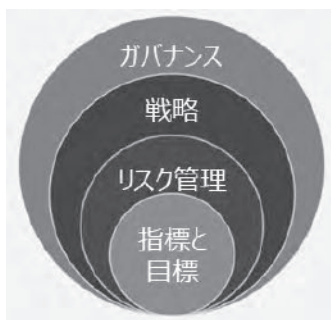
指針は、企業が自社の業種やビジネスモデル・戦略に応じて積極的に活用することを推奨しており、

- ・効果的な情報開示（可視化）に向けた基本的な考え方である「**人的資本の可視化の方法**」
- ・具体的な準備の例示や開示媒体への対応を示した「**可視化に向けたステップ**」
- ・参考となる開示指標や事例、関連情報を整理している「**付録**」で構成されています。

* サステナビリティ関連情報開示の分野では、気候関連財務情報の開示フレームワークであるTCFD (Task Force on Climate-related Financial Disclosures) 提言において、ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標の4つの要素についての開示が推奨されて以来、この構成に基づく説明が広く受け入れられつつあり、投資家にとって馴染みやすい開示構造となっています。人的資本についてもこの4つの要素（ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標）に沿って開示することが効率的とされています。

(図：サステナビリティ情報の記載欄においても採用される4つの要素 参照)

図：サステナビリティ情報の記載欄においても採用される4つの要素



ガバナンス	戦略
人的資本に関連するリスク及び機会に関する組織のガバナンス	人的資本に関連するリスク及び機会が組織のビジネス・戦略・財務計画へ及ぼす影響
リスク管理	指標と目標
人的資本に関連するリスク及び機会を識別・評価・管理するためのプロセス	人的資本に関連するリスク及び機会の評価・管理に用いる指標と目標

出所 非財務情報可視化研究会 人的資本可視化指針（2022年8月）

■ 人的資本の情報開示に関する国際的なガイドライン「ISO 30414」

「ISO 30414」は企業経営におけるESG「Environment（環境）」「Social（社会）」「Governance（ガバナンス）」投資への高まりを背景に社内外のステークホルダーに対する人的資本に関する報告のための指針です。また、労働力の持続可能性をサポートするため、組織に対する人的資本の貢献を考察し、透明性を高めることを目的として発表された人的資本の情報開示に関する国際的なガイドラインです。

2018年12月に国際標準化機構（ISO）が発表した人的資本に関する情報開示のガイドラインで11の領域（58の測定基準）が記載されており、人材戦略への影響を数値化し、経営の持続可能性を支援しています。

（図表5：人的資本に関する情報開示のガイドラインにおける11の領域 参照）

図表5：人的資本に関する情報開示のガイドラインにおける11の領域

ISO 30414の11領域	
1. コンプライアンスと倫理	7. 生産性
2. コスト	8. 採用、異動、離職
3. 多様性（ダイバーシティ）	9. スキルと能力
4. リーダーシップ	10. 後継者育成
5. 組織文化	11. 労働力の利用可能性
6. 組織の健全性、安全、福祉	

JILSが認定する資格を活用した ロジスティクス・物流分野における人的資本の情報開示例

経営戦略を実現できるロジスティクス人材の育成			
当社が求めるロジスティクス人材像	JILSが認定する資格	左記資格にて習得できるスキル、能力	当社における資格取得者数
【経営幹部（経営者・役員）】 当社の経営幹部には、○○○○○などのスキル・能力が求められる。	ロジスティクス経営士	経営の視点からロジスティクスを捉え、改革を推進することができるCLO（チーフ・ロジスティクス・オフィサー）	○○名
	物流技術管理士	物流・ロジスティクスの専門知識や管理技術を有し、物流品質向上、物流効率化、コストダウン等を実現できるロジスティクスのプロフェッショナル	○○名
【中間管理職（部長・課長）】 当社の中間管理職には、○○○○○などのスキル・能力が求められる。	物流技術管理士補	物流・ロジスティクスに関わる基礎知識を有し、実務への応用の仕方を習得している次世代のロジスティクス・プロフェッショナル	○○名
	国際物流管理士	国際物流の専門知識を有し、グローバルレベルで全体最適を志向し、幅広い視点で新たな事業やサービスを企画し、実践することができる国際物流のプロフェッショナル	○○名
【中堅職員（係長・主任）】 当社の中堅職員には、○○○○○などのスキル・能力が求められる。			
【新任・新人職員】 当社の新任・新人職員には○○○○○などのスキル・能力が求められる。	物流現場改善士	物流現場の現状を把握し、課題を解決するために定量データをもとに改善実行計画を立案し、メンバーと協力しながら改善を推進することができる物流現場の改善リーダー	○○名

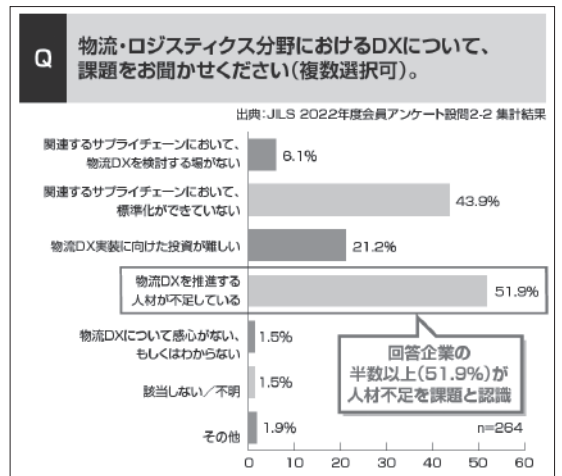
JILSでは、認定する資格の貴社における取得状況（資格名、取得者名、取得年度）について情報提供いたします。

有価証券報告書における人的資本の情報開示などの際にご活用ください。また、資格取得者情報についてはお気軽にお問い合わせください。

課題解決の鍵となる高度物流人材・物流DX人材の活躍

● 物流・ロジスティクスにおけるイノベーションや DX の必要性

労働力不足をはじめ、深刻な課題が山積する物流・ロジスティクスにおいて、その解決に向けては個社のみならず、高い視座での企業連携によるイノベーションが求められています。その手段としてのDX（デジタルトランスフォーメーション）実現は多くの企業で喫緊の課題として認識されています。しかしながら、その推進を担う人材が不足していることが JILS 会員アンケートにて明らかになっています。

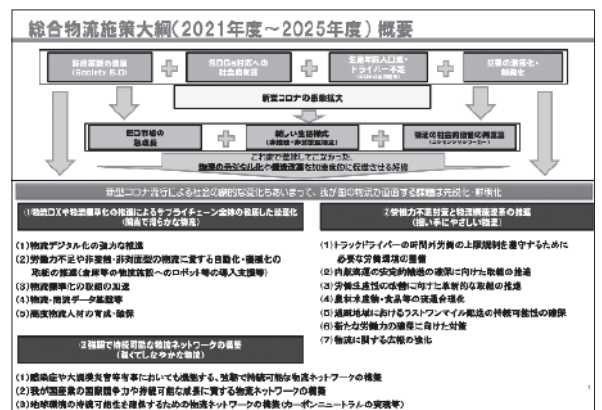


出典：JILS/2022年度 会員アンケート調査 集計結果

https://www1.logistics.or.jp/Portals/0/pdf/2022_JILSquestionnair_survey.pdf

● 総合物流施策大綱における記載

我が国の物流施策の指針を示す総合物流施策大綱においても、物流DXを推進する「高度物流人材の育成・確保」が必要であることが謳われており、具体的な対策として「物流DXを推進する人材に求められるスキルの明確化」や「各階層への学習機会の提供」に取り組む、とされています。



出典：国土交通省 / 総合物流施策大綱(2021年度~2025年度)概要

<https://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/content/001464774.pdf>

● 「高度物流人材の育成・確保に関するワークショップ」における記載

大綱の内容を受け、国土交通省では「高度物流人材の育成・確保に関するワークショップ」が設置され、令和5年3月30日に「物流起点の価値創造を実現する人材の育成に向けて」とのテーマにて提言がなされました。本提言では各企業で取り組まれている先進事例を基に検討された「今後求められる高度物流人材像」が示されている他、人事制度・評価制度との連携にも言及しています。

国土交通省「物流起点の価値創造を実現する人材の育成に向けて」概要 (令和5年3月30日)

1 物流DXやデジタル化の推進によるサプライチェーン全体の最適化の促進 (得意先・事業者)

2 労働力不足や非労働力・非正規雇用の増加に資する自動化・機械化の取組の推進 (倉庫等の物流施設へのロボット等の導入支援等)

3 物流効率化の取組の推進

4 物流・物流サービス品質の向上

5 物流DXの推進

6 物流DXの推進

7 物流DXの推進

8 物流DXの推進

9 物流DXの推進

10 物流DXの推進

11 物流DXの推進

12 物流DXの推進

13 物流DXの推進

14 物流DXの推進

15 物流DXの推進

16 物流DXの推進

17 物流DXの推進

18 物流DXの推進

19 物流DXの推進

20 物流DXの推進

21 物流DXの推進

22 物流DXの推進

23 物流DXの推進

24 物流DXの推進

25 物流DXの推進

26 物流DXの推進

27 物流DXの推進

28 物流DXの推進

29 物流DXの推進

30 物流DXの推進

31 物流DXの推進

32 物流DXの推進

33 物流DXの推進

34 物流DXの推進

35 物流DXの推進

36 物流DXの推進

37 物流DXの推進

38 物流DXの推進

39 物流DXの推進

40 物流DXの推進

41 物流DXの推進

42 物流DXの推進

43 物流DXの推進

44 物流DXの推進

45 物流DXの推進

46 物流DXの推進

47 物流DXの推進

48 物流DXの推進

49 物流DXの推進

50 物流DXの推進

51 物流DXの推進

52 物流DXの推進

53 物流DXの推進

54 物流DXの推進

55 物流DXの推進

56 物流DXの推進

57 物流DXの推進

58 物流DXの推進

59 物流DXの推進

60 物流DXの推進

61 物流DXの推進

62 物流DXの推進

63 物流DXの推進

64 物流DXの推進

65 物流DXの推進

66 物流DXの推進

67 物流DXの推進

68 物流DXの推進

69 物流DXの推進

70 物流DXの推進

71 物流DXの推進

72 物流DXの推進

73 物流DXの推進

74 物流DXの推進

75 物流DXの推進

76 物流DXの推進

77 物流DXの推進

78 物流DXの推進

79 物流DXの推進

80 物流DXの推進

81 物流DXの推進

82 物流DXの推進

83 物流DXの推進

84 物流DXの推進

85 物流DXの推進

86 物流DXの推進

87 物流DXの推進

88 物流DXの推進

89 物流DXの推進

90 物流DXの推進

91 物流DXの推進

92 物流DXの推進

93 物流DXの推進

94 物流DXの推進

95 物流DXの推進

96 物流DXの推進

97 物流DXの推進

98 物流DXの推進

99 物流DXの推進

100 物流DXの推進

出典：国土交通省 / 高度物流人材の育成・確保に関するワークショップ 提言 <https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001597413.pdf>

● JILS における取り組み

JILSにおいても、物流・ロジスティクスの課題解決やイノベーション創出に向け、資格認定講座や各種専門セミナー等を通じ、高度物流人材/物流DX人材の育成・確保に向けた支援を行っています。また、2023年度は、「ロジスティクスイノベーション推進委員会」において、高度物流人材/物流DX人材の在り方や、これらの人材が活躍するために企業に求められる取組み等を取りまとめ、発表する予定です(2024年2月予定)。

オンライン事業へのご参加にあたり

日本ロジスティクスシステム協会（以下「主催者」という）が定める「JILS オンライン研修受講にあたってご了承いただきたいこと」と以下の事項に同意のうえお申し込みください。

- Zoomクライアントが使用できない場合はご参加いただけません。開催前に接続確認のご案内をいたします。
- 参加者に起因する事由により通信が中断した場合は、主催者は責任を負わないものとします。
- オンライン事業の録画、録音、撮影は禁止します。
- 参加者により運営を妨げるおそれのある行為がある場合、対象者の参加を中止させることがあります。

< Zoomクライアントについて >

- オンライン研修はZoomを利用して実施します。ミーティング用Zoomクライアントをインストールのうえ、以下のZoom接続テストURLにアクセスいただくと接続の確認をすることができます。
Zoom接続テストURL <https://zoom.us/test>

JILS オンライン研修受講にあたってご了承いただきたいこと

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（以下、JILS とします）が主催するオンライン研修へのご参加にあたり、以下をご了承の上、お申込みいただけますようお願いいたします。

1. オンライン研修の運営について

- 1) 参加者、講師および JILS は、事前にお知らせした目的に沿い、三者が協力して研修を行います。また、各種法令に沿い、公序良俗に反しない研修の実施にご協力いただきます。
- 2) 講師および JILS は、参加者に発言や意思表示などをお願いすることがあります。研修の目的に合わない発言、資料の提示などは、講師および JILS が制限をすることがあります。
- 3) 参加者は、お申込みをいただいた方 1 名に限り、1 つの機器でご参加いただくことができます。
- 4) 参加者は、研修にて提供された内容・資料等の全てにつき、参加者本人の受講と復習のみに限り利用していただけます。参加者以外の方への提供はできません。
- 5) 参加者には、ネットワーク、情報機器その他オンライン研修参加のために必要な費用を負担していただきます。
- 6) 参加者、講師および JILS は、オンライン研修に利用するアプリケーションについて、その時点での最新バージョンを利用します。

2. トラブルの防止について

- 1) 参加者は、オンライン研修への参加に関する情報を、他者にお知らせしてはけません。
- 2) 講師および JILS は、理由のいかんをとわず、参加者に対する、参加料の返金、オンライン研修に関連した損害および逸失利益などに対する賠償は、一切行いません。
- 3) 公衆衛生上その他の事由により、JILS は、お断りなくオンライン研修の開催を中断・中止・延期することがあります。
- 4) 講師および JILS は、参加者間ならびに参加者・第三者間のトラブルについて、責任を負いません。

3. 個人情報の取扱い等

- 1) 講師および JILS は、参加者の復習のため、また、講師および JILS の記録のために、録音・録画をする場合があります。
- 2) 参加者の個人情報のうち、氏名、所属、メールアドレスについては、研修の効果をあげるために、講師および JILS が、研修時に利用することがあります。
- 3) JILS は、法令その他の規範を遵守し、プライバシーポリシーに基づき、個人情報の保護に努めます。

以上

ご参考：JILS プライバシーポリシー <https://www1.logistics.or.jp/privacy.html>

※諸事情により、「JILS オンライン研修受講にあたってご了承いただきたいこと」の内容等を変更する場合があります。

(2023年10月現在。本ページの内容は、予告なく適宜、見直しを実施します。お申し込み時点での最新版を適用いたします。最新版は、JILS ホームページにてご確認ください)
JILS ホームページ <https://www1.logistics.or.jp/>

入会のご案内

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）はロジスティクスシステムの高度化と普及推進を使命とし、あらゆる業種からの979社（2023年10月1日現在）の法人会員および、個人会員により組織・運営されております。会員には様々な特典が用意されております。是非この機会にご入会いただき、貴社のロジスティクス高度化のためにご活用ください。

会員特典

- 機関誌「ロジスティクスシステム」の無料配布（年4回／1口3冊）
- 会員ライブラリ（機関誌バックナンバー、統計・調査年報）の利用
- 物流現場改善事例集の利用
- 物流改善賞受賞事例集の配布
- 各地新春交歓会、総会など交流の場への参加
- 本会主催の展示会の入場券無料配布
- 本会主催の展示会の出展料優遇
- 本会主催の講座・セミナー・講演会・研究会・イベントの参加料割引

- ・入会は随時受け付けております。当協会の趣旨に賛同する法人であれば所定の手続きを経て、入会いただけます。
- ・入会金…1万円（法人会員、個人会員とも） ・年会費…法人会員：12万円、個人会員：3万円
- *年度途中のご入会の場合は、月割計算いたします。

お問い合わせ・資料請求

本ガイドに記載の内容につきましては、以下までお気軽にお問い合わせください。

- 【お問い合わせ先】** 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）
お問い合わせは、e-mailまたはJILSホームページの「お問い合わせ」フォームよりお願いします。

本 部	〒105-0022 東京都港区海岸1-15-1 スズエベイディアム3F T E L 03-3436-3191 F A X 03-3436-3190 担当：業務管理部（shien@logistics.or.jp）
関西支部	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞ビル11F T E L 06-4797-2070 F A X 06-4797-2071 担当：大西（kansai@logistics.or.jp）
中部支部	〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄1-22-16 ミナミ栄ビル407号 T E L 052-228-2225 F A X 03-3436-3190（本部共通） 担当：大川（chubu@logistics.or.jp）

【各種催しに関するご案内およびパンフレットの送付について】

- 各種催しの詳細につきましては、JILSホームページやパンフレット等にて順次ご案内予定です。
- パンフレットが完成し次第、ご希望の方にはパンフレットを送付しますので、JILSホームページの「お問い合わせ」フォームより、参加・受講を検討している催しの名称を記載のうえ、お問い合わせください。

JILS ホームページ <https://www1.logistics.or.jp/>

JILS

検索



個人情報のお取扱いについて

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）では、個人情報の保護に努めております。詳細は、JILS プライバシーポリシー（<https://www1.logistics.or.jp/privacy.html>）をご覧ください。

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 (<https://www1.logistics.or.jp/>)



<https://www1.logistics.or.jp/>